

問 22 富士市の広報全般についてのご意見

1 「広報ふじ」の内容について 77 件

- 広報は何を目的にされているのか。ふだん見ていない、届いていない方へ届ける必要がなければ、現状維持をすればよいが、そうでないならもう少しやり方を考えるべきだ。例えばタイトルのコピーなど。何かを失う必死さが足りない。届ける価値ある情報を。(男性 20 代)
- いろいろな役に立つ情報が載っているのは分かるが、新聞にも載っているコボちゃん等の 4 コマ漫画を富士市の広報にも載せてほしいと思っている。(男性 20 代)
- レイアウトやデザインに力を入れてほしい。(男性 30 代)
- もっと見やすくしてほしい。(男性 30 代)
- 市の問題点についてフォーカスした広報をしてほしい。(男性 40 代)
- 子育てに関する情報をもっと取り上げてほしい。(男性 40 代)
- 「広報ふじ」があればほかには必要ないと思う。(男性 40 代)
- 市が取り組んでいる割に見ていない。内容はともかく、なぜ市民の目に留まらないかを考えないとせっかくの取組が生きない。(男性 40 代)
- 「広報ふじ」はメインとそうでない物の文字の大きさ、メリハリを持たせると、もっと見やすく分かりやすいと思う。(男性 40 代)
- 将来、道路や条例が変わったときに報告してほしい。月に 2 回の発行が多い。めくって読みたいと思う内容でないため、面白さが欲しい。漫画にするなど、小学生が手に取りたいと思えるようにする。真面目に書くことはよいが、噛み砕いた内容にする。(男性 40 代)
- 無駄。(男性 50 代)
- 特集記事は子どもに役立つ物を夏季限定で組むとか、毎号異なる物は大変なので 2～3 号連続する物などを組むなどして、興味をそそられるように深掘りしてほしい。(男性 50 代)
- せっかく市立高校があるのだから、高校生にもっと参加させたほうが将来のためになると思う。市立以外の高校も新聞部があり、頑張っているようだ。(男性 50 代)
- 学校教育や地域として子どもを育成していくプログラムについて掲載してほしい。(男性 50 代)
- まず、見たいと思わない。紛れ込んだ紙の一部にしか見られない。地域に根差していない。ただ発信するだけ。心に響かない。(男性 50 代)
- 大々的に活動をしている人たちだけでなく、小さいながらも富士市やそれに関する情報等を発信している人たちにもスポットを当て紹介することもあったらよいと思う。現在の状況下で富士市だけ防災訓練等を市全体でやっている。結果、県 3 位の定住者、東部 1 位である。その施策を市民に回答する必要はないか。(男性 60 代)
- もう少し分かりやすくしてほしい。(男性 60 代)
- 富士市のことをいろいろ知らせてくれる。これからはもっと見たり聞いたりしていきたい。(男性 60 代)

- 市政に対する市民からの辛口意見のコラムがあったほうがよい。 (男性 70 代以上)
- 生活に必要な情報が得られている。 (男性 70 代以上)
- 表紙の写真が美しい。 (男性 70 代以上)
- 「広報ふじ」は月 2 回頂き、必ず目を通すので、それでほとんどの情報が分かる気がする。月 2 回では作成する人たちが忙しいのではないだろうか。月 1 回で内容を考えたらよいのではないか。 (男性 70 代以上)
- 工夫した編集であり、特段の変更は不要だと思う。 (男性 70 代以上)
- 「広報ふじ」はあまり読まない。 (男性 70 代以上)
- 地区まちづくりセンターや「広報ふじ」で情報を得ているので、現状のままでよい。 (男性 70 代以上)
- 「広報ふじ」はよくできていると思う。 (男性 70 代以上)
- 身近な話題が盛りだくさんで、楽しませてもらっている。データや表での表現も分かりやすい。 (男性 70 代以上)
- 「広報ふじ」の第一面の片隅に、富士市に関するトリビアをクイズのように設けてもらえると面白いと思う。静岡新聞の「3分塾」、朝日新聞の「しつもん！ドラえもん」のような物。毎回でなくてもよいと思う。 (男性 70 代以上)
- 10 代の人の興味のあることが少ないと思う。 (女性 10 代)
- 真面目な情報発信と、楽しませる企画に関する情報発信が、中途半端に混ざってしまっている印象を受ける。知りたい情報に辿り着けないもどかしさがあるため、メリハリのある広報を心がけてほしい。 (女性 20 代)
- 面白い内容があったり、防災を呼びかけていて危機管理の意識付けにつながったりしていると思う。 (女性 20 代)
- 「広報ふじ」はあまり見ていない。 (女性 20 代)
- もっと面白いことをやってほしい。 (女性 30 代)
- 毎回楽しみにしている。どんな情報が出ているのか楽しみである。仕事や家事で忙しい日々なので、個人的には月に 1 回くらいの発行がよいと感じている。 (女性 30 代)
- 家を建てて自治会に加入してからは、「広報ふじ」は毎回目を通すようにしている。確定申告等、必要な情報を確実に得られて助かる。 (女性 30 代)
- 若い人にも関心を持ってもらえる内容を、もう少し多く取り入れてほしい。イベントや抽せんでのプレゼント等。 (女性 30 代)
- 「広報ふじ」はとても見やすいと思う。特に見てほしいページを前にするとよいと思う。イベント情報は、子どもが喜ぶので多いとうれしい。お勧めのお店の情報や公園の特集がもっと見たい。 (女性 30 代)
- ある程度の年齢の子どもが読めたり興味を持てたりするようなクイズなどの内容があっても楽しそうだと思う。 (女性 30 代)

- ・ 沼津市に職場があり、「広報ぬまつ」を目にすることがあるが、富士市が断然読みやすく、読む気になる。レイアウトやデザインが古くなくて、若い世代も読みやすいのではないかと思う。
(女性 30代)
- ・ 市のイベントや我が家のアイドル、講座の募集など、興味のあるところは割とよく見ているが、それ以外のところはサーッと見ているくらいな感じがする。各年代で興味や関心のあるものは異なると思うが、子育て世代だと子どもの遊び場やイベントなど、子どもに関する情報が多くあるとありがたいと思う。
(女性 40代)
- ・ 目を通してはいるが、特に興味のないことばかりが多い印象。月2回は多過ぎると思う。
(女性 40代)
- ・ 「広報ふじ」はとてもよくできていると思う。コロナのワクチン接種がきっかけでLINEに登録したが、同報無線の情報やコロナ情報などをチェックすることができ、便利だと感じている。自宅近くのバス停からの時刻表や時間、料金まで調べることができるのは便利だと思った。
(女性 40代)
- ・ 忙しくてじっくり読む時間、見る時間がない。
(女性 40代)
- ・ いらない。
(女性 40代)
- ・ 「広報ふじ」が読みやすくてよいと思う。
(女性 40代)
- ・ スポーツ教室、おいしい物に興味がある。これからも楽しみにしている。
(女性 40代)
- ・ 「広報ふじ」を毎号読んでいるが、子育て世帯向けの情報が少なく、入園先や入学先に迷っている人にとっては残念だと思う。特に、他県から転入してくる子育て世帯の方は、市役所へ出向くことも子連れでは大変だと思うので、広報紙に毎号少しでも子育て支援が受けられる場所等の紹介をしてほしい。
(女性 40代)
- ・ 誰が読んでも分かりやすく、興味や関心が湧いてくるような内容にしてほしい。字ばかりの広報では堅苦しくて飽きてしまうので、写真や絵を多く使う。お得な情報やお祭りなどのイベント情報をもっと知りたい。
(女性 40代)
- ・ 分かりづらい。
(女性 50代)
- ・ あまり興味を持って見る内容がなく、後で見ようと思うが結局見ず次の号になり、ほぼ見ない。もっと引きつけるような特集を一つでも載せていただけると、毎回見るかもしれない。
(女性 50代)
- ・ 「広報ふじ」を見ることで市の行政にも関心を持つようになったと思う。表紙の写真も毎回楽しく拝見している。市からのお知らせは大切な情報なので、これからも分かりやすくスピードを持って伝えていただきたいと思う。
(女性 50代)
- ・ 「広報ふじ」を見ていない人も多いと思うけれど、私はイベント情報を見て利用させてもらっているので、継続してほしい。紙でパッと読みたい記事が探せるのがよい。
(女性 50代)
- ・ 年齢や家族構成も変わって、富士市で生活している中で、市の広報での情報が大いに役立っている。紙でじっくり、LINEで簡単にすぐ情報を見つけることができ便利に思う。
(女性 50代)
- ・ 分かりやすくて、感謝している。
(女性 50代)
- ・ 趣味やスポーツをやりたいと思っているので、地区まちづくりセンターや小中学校の体育館で行っている教室やイベントを載せてほしい。または調べられるようにしてほしい。
(女性 50代)
- ・ 読みやすい。
(女性 50代)

- ドラマや映画で使用した撮影地の紹介や、その俳優などのインタビューなど、見たくなる物をお願いしたい。
(女性 50代)
- 「広報ふじ」の紙について。どうしても分からないことや知りたいことがあれば、それについてネット等で調べると思うが、特にそういうこともなく何気にパラパラと情報を家族で見るのであれば、広げて見られる紙が便利である。「Radio-f」については、以前の職場で毎日流していたが、地域の情報が楽しかった。お客様にしばしば「このラジオは何？」と聞かれることもあったので、まだまだ知らない方も多いのではないかと思う。
(女性 50代)
- 「広報ふじ」は見やすく読みやすいと思う。毎回タイムリーな行事等が表紙になっているのもよいと思う。
(女性 60代)
- 広報が届くたびに、ざっくりだが目を通してている。市の情報源として楽しみにしている。
(女性 60代)
- 表紙の写真が毎回とてもよい。現状、グッドである。数日前に固定電話を止め、スマートフォンを持った。これで私もQRコードを読み取れるはず。
(女性 60代)
- 「広報ふじ」は以前より読みやすくなったと思う。
(女性 60代)
- 「広報ふじ」は時間のあるときに読む。とても工夫してある紙面だと感心している。市の施策記事は、市民として読まなければいけないと感じている。
(女性 60代)
- 楽しみにしている。表紙の写真が好き。
(女性 60代)
- 「広報ふじ」の紙面の記事の割り振り、内容がマンネリ化していて、記事の内容に興味を湧いてこない。載せる内容の見直しをしてほしい。
(女性 60代)
- 広報紙等はいろいろな情報を知ることができるので、続けてほしい。
(女性 60代)
- 「広報ふじ」は、よくまとまっているが、ページ数が多いと思う。
(女性 60代)
- 「広報ふじ」は毎回必ず目を通してている。写真等で知り合いが写っていると、ほっこりする。
(女性 60代)
- 高齢になった今、頭はもちろん、耳も目も体も前年と同じとは年々言いにくくなった。楽しみといったら、時間をかけて新聞等の隅から隅まで目を通すことである。「広報ふじ」も届くと、大体は全般に広げて見る。少し前になるが、「広報ふじ」が賞を取ったようなことを新聞で確認し、自分は何一つ携わっていないがうれしく思った。いろいろな方のご苦勞があつての身近な記事と読みやすい文章があれば、読者は注目すると思う。最近はカラー写真もあり、市の広報紙として役立っており、手元に届くのが楽しみである。富士市以外の沼津市や富士宮市辺りの広報紙も見てみたい。
(女性 70代以上)
- 毎回楽しみに見ている。
(女性 70代以上)
- 「広報ふじ」の表紙は楽しめる。
(女性 70代以上)
- 時々読んでいるが、自分が知らなかったことなども掲載されているのでよいと思う。これからも目を通していく。
(女性 70代以上)
- 「広報ふじ」はいつも楽しく読んでいる。これからもいろいろな記事で富士市のことを知らせてくださるように楽しみにしている。
(女性 70代以上)
- 年老いてくると、読むことが大変になってくる。少しでも文章を読んで情報を知りたいと思う。
(女性 70代以上)

- 何を一番伝えたいのか、知りたいことがどうすればすぐに分かるのか。見やすく、よい意味で気になる記事にまとめてほしい。(女性 70代以上)
- 各地区の成り立ち(歴史)を深掘りしてほしい。(女性 年代不明)
- 地域での取組の情報が分かるのでためになる。(性別不明 年代不明)

2 「広報ふじ」の配布・発行について 46件

- 紙の「広報ふじ」は少し読んで捨ててしまうことが多いので、紙が無駄になっている気がする。現在はネットで閲覧できるので、若い世代には必要ないと思う。(男性 30代)
- ペーパーレス化したほうがよい。それだけでコストがかかっている。広報、医療、スポーツ、イベント、交通、ごみ、サービス、防災など、一つのアプリケーションで一元管理すれば、登録して利用したいと思う。コストも削減でき、市民に還元できる。少数の方のためにペーパーレス化できないのなら、少数の方のために違う提供をしてあげればよいと思う。市民のスマホのメイン画面に広報アイコンが表示されれば、意味のあるものになったと思う。(男性 40代)
- デジタル化、ペーパーレス化を推進してもらいたい。(男性 40代)
- 「広報ふじ」は廃止、インターネットの閲覧でよい。経費の無駄。読む人は少ない。区長班が「広報ふじ」の班への仕分けをして大変。「広報ふじ」をやめて住民税を下げろ。(男性 40代)
- 「広報ふじ」を丸めて配られると、とても見にくい。(男性 40代)
- 「広報ふじ」が届くのが毎回遅い。(男性 50代)
- ペーパーレス化を希望する。欲しい人は公会堂またはロッカー等に取りに行くようにすればよいと思う。昼間にリハビリを兼ねてまちを歩いている高齢者など。(男性 50代)
- 配布する人への報酬金。発行日からの日数もかかることから、多少なりとも不公平感はある。少しでも是正するには、月1回程度でも十分ではないだろうか。(男性 60代)
- 組長さんや班長さんが回覧板を回す準備や区費集め、広報配布など負担が大きい。高齢者が増え、班長さんができなくなる人が増えている。区費の集金も今の時代に現金を集めて回るなど、危険を感じている。広報配布方法など、時代に合わせて変えていくべきだと思う。(男性 60代)
- 月2回の「広報ふじ」の配布は無駄だと思う。月1回でよいと思う。(男性 60代)
- 紙のまち富士だから、終生、古紙の広報を続けるべきである。今後、税収は減るのだから、富士まつりに多額の予算をつけるべきではない。経年劣化した道路、橋の補修にたくさんお金がかかるのは分かっているし、富士川など川の氾濫に備えなければいけないと思う。貸し空き家を募集して紹介したら、移住してくる人が増えると思う。(男性 60代)
- 区の三役が配布の小分けを行うが、部数が多くて大変そうである。(男性 70代以上)
- 「広報ふじ」は月1回の発行でよい。(男性 70代以上)
- アパートに住んでいて回覧板が回ってきたことがないので、「広報ふじ」が届かず手に取る機会がない。全ての人に行き渡るような工夫がほしい。LINEで自分が気になる情報が届くシステムがあるのうれしい。好きなタイミングで気になる情報だけ見られるのは、無駄がなくとてもありがたい。(女性 20代)

- SDGs の観点から電子化していくことを視野に、電子版のみにするなど、削減できるところは削減していく。 (女性 20 代)
- 「広報ふじ」の発行を廃止すべきとは思わないが、全世帯に配るのは無駄だと思う。ほぼ見ずに捨てているので、資源の無駄遣いだと感じている。地区まちづくりセンター等で、必要な人のみもらえばよい。また、結局回覧が遅くて期日が迫っている情報などは意味がないときもある。インターネットや公式 LINE で見ることのほうが多くて便利。小さな無駄も積み重なると大きな無駄となるので、減らしていったほうがよいと思う。 (女性 30 代)
- LINE 等だとスルーする可能性があるため、紙のほうが手に取りやすいことは間違いないが、やはり環境を考えるとやめたほうがよいと思う。閲覧数は確実に減るし、情報も伝わりづらくなるため、通知方法に工夫が必要。コンビニに置くのは大量に残っているのを目にしたことが多々あるため、無駄。やるならコンビニに協力してもらって、置く所を工夫したほうがよい。目に留まらない。 (女性 30 代)
- 幅広い年代の人々が情報を得られるよう、これからも紙での情報発信も続けてほしい。 (女性 30 代)
- 「広報ふじ」の情報は大変有意義だが、頻度が多く、ゆっくり読もうと取っておくと、次の号が届いてしまう。全世帯にカラー印刷となるとお金もかかると思うので、頻度を減らすとか、LINE を使ってペーパーレス化（紙で欲しい人はもらえる工夫）にするのもよいのではと思う。 (女性 30 代)
- 「広報ふじ」は必要な情報を適宜発行していただければそれで十分である。なぜ月 2 回も発行する必要があるのか、答えられますか。発行するにあたり一体年間でいくらの税金が使われているのか、はっきりと説明してほしい。配布してくれる区長さん、班長さんの負担について考えてみたことがありますか。無駄なことはやめてほしい。作るなら、配りましょう。 (女性 30 代)
- 回覧板や「広報ふじ」を月 1 回にしてもらいたい。月 2 回も必要ないと前から思っている。回覧板に関しては廃止してもよいと思う。もっと手間のかからない方法で情報を流してもらいたい。 (女性 40 代)
- 「広報ふじ」の配布は月 1 回を望む。 (女性 40 代)
- 「広報ふじ」は月 2 回もいらぬ。月 1 回でよい。経費も減る。 (女性 40 代)
- 「広報ふじ」はモノクロでよいと思う。経費削減に取り組んでいただけたらと思う。無駄な経費は削除して、ほかに回すべき。 (女性 40 代)
- 紙の「広報ふじ」は希望する家庭にのみ配布でよいのではないかと。欲しい人は地区まちづくりセンター等でもらえばよい。後はウェブでよい。コスト削減のほうがうれしい。 (女性 40 代)
- 「広報ふじ」がコンビニに置いてある所がとても助かる。 (女性 40 代)
- 月に 2 回あっても内容が薄いときがあるし、町内で配布するのちょっと大変なので、月の初めの 1 回で厚くしたらどうか。「広報ふじ」と my d o がくっついていてもよい気がする。子育てや中小企業の給付金や支給品について、もっと知りたい情報を詳しく大きく載せてほしい。 (女性 40 代)
- 税金を使って広報ツールをつくるのならば、高齢者世帯等に限定し、全世帯分を配布する必要はないと思う。それよりも富士市のホームページが更新されていない状態のほうが問題であり、新しい取組より既存のツールを充実させるところにもっと尽力すべきだと思っている。富士宮市の広報活動や取組など、よい点はどんどん真似てほしい。 (女性 40 代)

- 「広報ふじ」について。私の町内では毎月2回組長さんが全戸配布している。35～36戸、アパートもあり、階段の上り降りもしなくてはならず、とても負担である。「広報ふじ」は月1回でよいと思うし、紙でなくてもホームページを見ればよいと思う。紙のまちで紙を節約というのも違うのかもしれないが、人の負担を軽減してほしいと思う。(女性 50代)
- 「広報ふじ」はインターネットでも内容を確認できる状況にあり、全世帯への配布は無駄に思う。(女性 50代)
- 「広報ふじ」の紙での配布中止を検討しているようだが、紙での配布は継続してほしい。(女性 50代)
- 全てネットで分かるから「広報ふじ」は月1回でよい。回覧で回すのが大変だから。(女性 50代)
- 町内会を通しての配布ではなく、ポストへの配布をしてほしい。または新聞と一緒に配布のほうがよい。(女性 50代)
- 情報もデジタル化しているので、紙での配布は減らしたほうがよいと思う。すぐに古紙になってしまう。(女性 50代)
- 配布方法について。私の町内では班長宅に班員分が届き、回覧板で配っている。今年度班長だが、班長の負担になる。来年度からは月1回となるようだが、大変よいと思った。(女性 50代)
- コロナもあり、世の中の考え方も一変した。必要とする情報は都度自分で収集するので、広報の紙は必要性を感じない。回覧板の習慣も必要ないと思う。公共機関は紙に頼り過ぎ。紙かウェブか選択させてほしい。町内会もごみ回収と防災訓練だけで、子どもがいない家庭にとって、そのほかのイベント等は全く必要性を感じない。(女性 50代)
- ネットやスマホを使用できないが、情報は必要なので紙面は残していただきたい。(女性 60代)
- 「広報ふじ」の紙質は下げてよいと思う。(女性 60代)
- 「広報ふじ」は年3回くらいに減らしてほしい。多過ぎる。(女性 60代)
- 「広報ふじ」が月2回発行されているが、回覧板で回すのが結構負担である。月1回の発行にしたら予算も減るのではないかと思っている。(女性 60代)
- 「広報ふじ」が各家庭に配布されるのは、とてもよいことだと思う。(女性 70代以上)
- 「広報ふじ」は毎月2回来るが、月初めに1回でよいような気がする。広報を見る人も増えると思う。(女性 70代以上)
- 「広報ふじ」は近所でも読んでいない人が多いと感じる。特に若い人は読まない。税金のことも考え、また配布の手間も考え、月1回でよいと思う。(女性 70代以上)
- 人間は自分に関係のないことには無関心である。重要なことはとにかく、長くやっていると何でもマンネリ化してしまう。広報は重要なことだけに絞り、関心のある人はインターネット、QRコード等を利用すればよい。節約できるところは節約して、必要なところへお金を使ってほしい。市役所から近い場所なのに同報無線放送がほぼ聞こえない。(女性 70代以上)
- 「広報ふじ」が来年度から月1回になるという新聞記事を読んだ。大賛成。(女性 70代以上)
- ウェブサイトやLINEを使えない高齢者にとっては、「広報ふじ」や「市民暮らしのカレンダー」、「私の便利帳」等はぜひ発行して、各戸に配布してほしい。(女性 70代以上)

3 富士市公式 LINE について 16 件

- LINE は使いやすくてよいと思う。 (男性 30 代)
- 富士市公式 LINE の取組はよいと思う。これからも電子媒体を利用した広報活動を広めてほしいと思う。 (男性 50 代)
- このアンケートそのものをインターネット、LINE で行うこと。紙でやるのは無駄遣いである。LINE ならすぐ返信可能である。 (男性 50 代)
- 富士市公式 LINE の広報はとても便利に思う。 (女性 20 代)
- 富士市公式 LINE で新型コロナウイルスに関する情報（感染状況やワクチン接種等）を得られることはとても便利だと感じている。ありがとうございます。今後も情報発信の手段の一つとして LINE があってもよいのではないかと思います。 (女性 20 代)
- このアンケートの中で初めて知った広報紙や媒体があったので、あまり知られていない、または私が目にしていないのだと思った。富士市公式 LINE を利用しているが、定時にコロナ情報が配信されるので、見やすいタイミングで便利。ワクチンを予約するときに登録したが、使いやすくてよかった。 (女性 30 代)
- 回覧板をメールや LINE にしてほしい。 (女性 30 代)
- LINE で情報発信しているのはよいと思う。富士市民だから無料になったり割引されたりする情報（クーポン）を増やして、もっと紹介してもらえるとうれしい。無料で体験できる自然教室や、子どもは無料で利用できる施設などがあればよい。また、富士市にはおしゃれなカフェはあるが、他市や他県の方が魅力的に思う施設が少ないと思う。ららぽーと沼津やコストコのような施設があり情報発信していけば、「広報ふじ」や富士市公式 LINE を活用する人がさらに増えると思う。 (女性 30 代)
- 富士市公式 LINE のコロナ情報は、毎日必ずチェックしている。 (女性 30 代)
- 公式 LINE の配信頻度が多い。コロナワクチンの予約では若干使いづらかった。イベントや各種教室の情報を楽しみにしていて、都合があえば参加している。各種教室は 40 代の募集は少なく、少し残念。あっても都合が悪い。親子で参加できる 19~20 時くらいの教室が増えるとよい。 (女性 40 代)
- 行政ができる範囲でとてもよく広報活動をしていると思う。スマホ世代としては富士市公式 LINE ができたのが一番ありがたいと思った。維持管理はとても大変だと思うが、ぜひこのまま継続してほしい。 (女性 40 代)
- LINE からワクチンの情報やクーポンが取得できて助かっているが、高齢者にはログインするのも難しそうである。地域の足となるバスや交通インフラ等の情報がもう少しあると助かる。LINE から取得できても、時間がかかるので、リアルタイムで情報が欲しい。市外から 4 年前に引っ越してきたが、バスがあっても使いづらい。 (女性 40 代)
- 自分に関係がないと情報を見逃してしまう。子育てに関すること、介護に関することなど、「あっ！」と思ったときに情報がすぐ分かるようになればよいと思う。どこに何を聞けばよいのかと考えることもある。富士市のホームページは何だか分かりにくくて、LINE は手軽に見られてよい。 (女性 50 代)

- 娘が県外の大学に行っているため、大学でコロナのワクチン接種を受ける手続のために市役所に行って、LINE のチラシをもらい、それから市のことを色々LINE から閲覧できるようになり、すごく身近に感じられるようになった。大淵に住んでいるので、なかなか市役所には行けないのでとても助かっている。(女性 50代)
- LINE は更新されてくるため、例えば毎日のコロナ情報等、新しいことを把握できて安心。85歳の母は機械を使用しないため、広報紙は必要である。一緒に見ながら確認し合うことも可能であるため、家族間での対話が生まれる。(女性 50代)
- お堅いイメージの行政だが、LINE で見やすくなったことは頑張っていて工夫していると賞賛している。(女性 50代)

4 「市民暮らしのカレンダー」について 8件

- 「市民暮らしのカレンダー」は必要ない。お金の無駄。希望者のみ公共施設から持っていけばよいと思う。(男性 40代)
- 子どもが大学生で関東方面に進学している。今まで住み慣れた富士市のカレンダーが友達にも好評で、欲しい、欲しいと毎回言われるらしい。きっと富士山が載った写真だからだと思う。ぜひ販売してほしい。(女性 40代)
- 「広報ふじ」の翌月のカレンダーに予定が掲載されていれば、「市民暮らしのカレンダー」ははなくてもよい。「私の便利帳」はスマホを持っていたら必要はないと思う。でもスマホでない人もいるので、必要な人に届けてもらえればよいと思う。富士市公式 LINE から「市長のコロナ情報」を伝えてもらったのはすごくよかった。身近な富士市でどういうことが起こっているのかが分かってよい。正しい情報が伝わることはデマ等にならないので、これからもあるとよいと思う。(女性 50代)
- 「市民暮らしのカレンダー」は部屋のインテリアに合わず、使用しないのでいらない。欲しい家庭だけでよいと思う。卓上サイズならよい。(女性 50代)
- 富士山のカレンダーは我が家には要らないので、欲しい家庭だけにしたらよいと思う。(女性 50代)
- 「市民暮らしのカレンダー」は毎年届くのを楽しみにしている。毎日見ている富士山の一段とすばらしい姿と風景がよく、毎日の予定、実施したことを記入するのにちょうどよいスペースがあり、活用させてもらっている。これからも配布が続くことを願っている。(女性 60代)
- 「市民暮らしのカレンダー」は富士市らしくてよいと思う。市外から3年前に転入したが、そのとき(12月)には翌年のカレンダーはもらえなかった。「広報ふじ」は読んでいて見応えがあり参考になる。休日の17時ごろの「ふじの山」はもう少し長く聞いていたい。(女性 70代以上)
- 「市民暮らしのカレンダー」はいつも飾っている。(女性 70代以上)

5 コミュニティエフエム放送「Radio-f (84.4MHz)」について 3 件

- 「Radio-f」はマニアック過ぎる。 (男性 40 代)
- 「Radio-f」は聞かない。「広報ふじ」も来たときに見る。LINE 情報も見にくいため聞かない。コロナに何人感染したかくらい。もっと分かりやすく見られるようにしてほしい。 (女性 50 代)
- 先日の富士市水戸島付近の停電は「Radio-f」で情報を得ることができた。ピンポイントのとても身近なことが、今困っていることが、なぜこのような状態なのかが分かり、ローカルな話題でも本当に困っているときの助けになることを痛感した。 (女性 50 代)

6 同報無線放送について 28 件

- 同報無線放送が何を言っているのか聞き取れない。響いて、全く分からない。うるさいだけ。犬が吠えてうるさい。もっとゆっくり話してほしい。 (男性 40 代)
- 同報無線放送が反響しているためか、聞き取りづらい。 (男性 40 代)
- 火災や行方不明の同報無線放送は聞こえない。 (男性 50 代)
- 行方不明や火災などの同報無線情報等、コンピューターの音声が味気ない気がする。 (男性 50 代)
- 同報無線放送を深夜に流すのはブロックごとにするなど工夫してほしい。 (男性 50 代)
- 台風のとて、市内一部に避難指示が出た。しかし解除が出なかった(同報無線放送が聞こえなかった)。そこでホームページを見たが、書かれていなかった。翌日ホームページから、多分消防宛てだと思うが、メールを送ったが返信が来ない。翌々日に再度送ったところ、「避難指示は解除している」「ラジオを 1,000 円で買ってくれ」「メール申請をしてくれ」と言われたので申請をし、その後はメールで連絡が来る。そもそも市のホームページに「解除された」と一言書けば済むこと。または、市のホームページでメール申請へ飛ばせば済むこと。メール申請はホームページのどこにも見当たらず、かなり探して見つけた。ホームページの構成がバラバラなのでこんなことになる。この件でホームページは改善されたかと思ったが、されていない。市民の問い合わせや要望が反映されれば、自分たちの仕事も楽になるのと思った。苦情ではない。 (男性 60 代)
- 火災や行方不明の案内等の同報無線放送の音が聞きづらい。特に火災情報のとき、発生地域の案内は耳をすましても分かりづらい。 (男性 60 代)
- スピーカーでの放送はもう少し早口で話してほしい。まどろっこしい。 (男性 70 代以上)
- 同報無線放送の音がよく聞こえない。 (男性 70 代以上)
- 同報無線放送が聞き取れない。 (男性 70 代以上)
- 同報無線放送が聞こえづらい。 (男性 70 代以上)
- 同報無線放送や「広報ふじ」など、よりよくしてくださっているのが伝わる。いつもありがとうございます。 (女性 40 代)
- 火事と行方不明の放送が聞こえない。 (女性 40 代)

- 緊急時の情報が有事に求められると思うが、ふだんからこの放送がいざというときに役立つ物であるとの認知拡大が必要であり、急務であると思われる。(女性 40代)
- 同報無線放送があまり聞こえない。(女性 40代)
- 同報無線放送が聞き取りづらい。窓を開けて聞こうとしても、はっきり聞き取れないので改善してほしい。流れても意味がない。(女性 50代)
- 同報無線放送は聞き取りにくいので、富士市メールサービスはとても役に立ち分かりやすい。(女性 50代)
- 同報無線放送が聞きづらい。(女性 50代)
- 同報無線放送が余り聞こえない。(女性 50代)
- 同報無線放送が聞きづらいときがある。(女性 50代)
- 防災の放送等はすばらしいと思う。その反面、田畑を変えた地区など、聞こえない所もある。また、地震時の避難場所等は昔のままで本当に起きたときはそこは無理だろうと思う。今一度考えて広報していくことで、安心できるまちになると思う。現実に沿った具体的な内容を教えてくれる物であってほしい。民間にできることを公的に結び付ける等のコーディネートの場合であるとよいと思う。(女性 50代)
- 同報無線放送が機械音声になってから聞き取りにくい。(女性 50代)
- 防災や天気の注意報・警報、行方不明の方の情報を市内に流していただいているが、反響して聞き取りにくかったり、気がついて窓を開けると終わってしまったりする。(女性 60代)
- 同報無線放送が聞こえにくい。(女性 60代)
- 火災発生の同報無線放送が聞き取りにくいときがある。風で音が流れてしまうのだろうか。少々残念に思う。(女性 60代)
- 時々同報無線放送が流れているが、何を言っているのか聞こえないので、分からないまま終わっている。(女性 60代)
- 同報無線放送で人探しや火事等の後、結果を毎回きちんと知らせてほしい。(女性 70代以上)
- 同報無線放送の広報は、声が小さく聞き取れない。(女性 70代以上)

7 防災ラジオについて 5件

- 時報や行方不明、火災等の同報無線放送が活かされていない。1,000円で配布したラジオが壊れて使えないので、同報無線放送が聞こえない。(男性 50代)
- 富士市の防災ラジオは自動オン・オフのスイッチでないのはなぜか。区ごとの同報無線放送による広報はいい加減ともに聞こえるようにしてほしい。(男性 50代)
- 富士市防災ラジオを初期に購入したが、天間には電波が届かず、防災ラジオの役目を果たさず、電池も外して押し入れにしまったままである。何のために購入したのかと後悔している。今は妻の携帯の市公式LINEで情報を収集している。(男性 70代以上)

- 他県の地元比べて、大変精力的に活動されている印象を持っている。防災ラジオが安価で購入でき、またそのラジオの活用方法（災害情報のみならず、行方不明者情報等）も画期的で、私自身は移住組だが感心している。（女性 30代）
- 同報無線放送のラジオが故障していて、聞こえないのでそのままにしている。（女性 60代）

8 広報全般について 73件

- いろいろなコンテンツを用意しているようだが、絞って取り組んだほうがよいのではないかと思った。（男性 30代）
- 基本的に現状のままでよいと思う。（男性 30代）
- 広報が弱い。もっとインターネットを上手く使っていないと若者が外へ出ていってしまう。広報のせいだけではないが、アプリやネットでのPRをしていかないとだめ。InstagramやTwitterでの有料広告など、伝えたいターゲットへ届けるようにしないとだめ。（男性 30代）
- 市民に必要な情報を提供してほしい。（男性 30代）
- ブランドメッセージは知っていたが意味が分からない。込めたい気持ちが伝わるメッセージのほうがよいのでは。（男性 30代）
- 普通に暮らしていても情報等が目に入るようなPRをもっとしたほうがよいと思う。（男性 30代）
- 昼と夕方の広報を続けてほしい。可能ならば季節に応じて音楽を変えてほしい。新幹線駅と在来線駅が別ということが、富士市の魅力を台無しにしている。代替輸送についてアピールしたほうがよい。（男性 30代）
- 日常生活の中でなかなかじっくりと広報全般について知ろうとする（読む、聞く）時間が取りにくいので、必要な情報だけを手軽に取得できるようになるとよいと思う。（男性 30代）
- もっと市民（老若男女）の声を拾い上げ、どんどん発信してほしい。（男性 40代）
- もっとほかに力を入れてくれ。（男性 40代）
- 時代に合わせた形でよい。富士市には魅力を感じない。チャレンジが全くない。（男性 40代）
- 市長や市議会の日常的な活動がもう少し見えるようにしてもよい気がする。市議会だよりはボリュームがあり過ぎて、みんながどこまで読んでいるのか気になる。どの議員が頑張っているのか、役立つことをしているのかが、なかなか見えない。（男性 40代）
- 公共施設に関する情報を充実していただきたい。（男性 50代）
- 頑張っていると思う。（男性 50代）
- とてもよいと思う。（男性 50代）
- 富士山の日のイベント情報が少ない。富士川橋の遅れ。岩本山夜景を観光スポットに。（男性 60代）
- 病気のため参加できない。（男性 60代）
- 無駄に税金を使わないでほしい。（男性 60代）

- 最近富士市がメディアで取り上げられることが多いので、市が努力している様子がうかがえる。ただイベントだけでなく、最近増えている空き家等をどう活用すべきかなど、市の抱える課題について市民全体で考えていけるよう、広報の工夫も必要だと思う。(男性 60代)
- コロナの情報発信が遅い気がする。市の対策の明示が弱い。分かりにくい。(男性 60代)
- 観光誘致。県内外の方々へのPR。(男性 60代)
- 広報を利用することはほとんどないのが市民の大半だと思う。広報だけではなく、市民が利用しやすい、また利用したくなるような施策を強力に打たないと、広報自体の意味とプレゼンスがない。とにかく富士市は住みにくいまちのトップレベルだと感じる。数回の転勤で県外にも何度か住んできたが、その中では一番住みにくいまちなのは実感としてある。(男性 60代)
- ほかの地域に比べて情報発信が目立たない。(男性 60代)
- 広報全般についてよく知らない。あまり関心もない。(男性 60代)
- 富士・富士宮地区周辺の交通情報、気象情報について、素早い情報をお願いしたい。(男性 60代)
- 富士市ほうじ茶宣言とか、高校生の岳南鉄道のPRや、伝法小の子どもたちのすごいぞ富士など、若者たちの頑張りにはとてもうれしく、頼もしく思う。せっかく富士駅北口の開発が決定しているが、まずは新富士駅、富士駅との通路が第一である。県外からの人流があつての開発が一番である。今後のため若者ために借金してでもお願いしたい。(男性 70代以上)
- 朝7時の広報チャイムがいつの間にか消えてしまい、復活を望んでいる。市民にアンケートを取ってみてはどうか。その意見が市民の何%になるか報道してもらいたい。(男性 70代以上)
- 市民に身近な情報提供。(男性 70代以上)
- 市役所(行政側)から市内を巡回、監視し、住民から出にくい改善点に取り組み、結果改善等を行った広報等も出してほしい。例えば、道路の側溝の音がうるさい、カーブミラーを両方向が見通せるような小さな改善等。(男性 70代以上)
- Twitterで富士市の魅力などを写真付きで投稿してほしい。富士山の様子を投稿すれば、富士市に行ってみたくと思う人が増えると思う。(女性 20代)
- Instagramをつくったり、富士市のカフェやグルメを紹介しているインスタグラマーを公式アンバサダーのようにしたり、今はTwitterやFacebookよりもInstagramだと思う。(女性 20代)
- 富士市に引っ越してきて3年経っていないくらいだが、防災関係の情報が調べづらいと感じる。地震や津波、富士山噴火などが発生した際の避難場所や対応方法など、それぞれが常に頭に入っている状態が望ましいので、定期的に見やすい媒体で発信していただくと助かる。(女性 20代)
- イベントについては毎回アピール不足を感じる。富士市には頑張っている人もたくさんいるので、もっと市が活性化しないと魅力がないように見えてしまうと思う。若い人や未来を担う子どもたちに焦点を当て、富士市に活力が欲しい。富士山もあるのに何もアピールできていないと思う。(女性 30代)
- よい観光地で育児の制度などもよいところがあるが、効果的な広報が行われていないのもったいない。(女性 30代)
- どんな活動をしているか分からない。富士市、富士駅周辺がもっと活性化してくれることを願う。(女性 30代)

- 工場のイメージアップをするプロモーションがあるとよいのかもしれない。東京から富士市へ移住し、人に一番勧められないポイントが工場である（臭いとか景観とか）。大切な税金の財源と分かるからこそ、イメージアップすればよりよくなるのでは。町内会を1年やって、「広報ふじ」は月1回でよいと思った。毎回100軒配布するのは本当に面倒くさかった。無給なのに。ひどい。伝法1丁目地区にもう少し公園が欲しい。雨の日に子どもが土日でも遊べる施設が、有料でもよいのでできるとよいと思う。 (女性 40代)
- 今まで通りでよい。 (女性 40代)
- 高齢化社会、少子化、核家族化、未婚率の増加など、社会が変化している中、対象者が必要とする情報を的確に伝えられる内容、タイミングが必要だと思う。 (女性 40代)
- 今のままでよいと思う。 (女性 40代)
- 朝のチャイムがなくなり、少し寂しさを感じる。これ以上は減らさないでほしい。 (女性 40代)
- 富士市のよさや魅力について、富士市内ではなく、富士市外や県外に伝えていくべきであると考えている。富士市にたくさんの方が来て興味を持ってもらうことで、市が活性化するのではないだろうか。先日もBSの番組で富士市のことが放送されていたが、富士市をもっと発信していくことに力を入れてほしい。 (女性 40代)
- コロナ対応についての情報。 (女性 40代)
- 神戸地区（特に今宮や桑崎）など、山のほうはバスもなく道の街灯もないので、地域の設備や情報（どこに、どのように意見を言えばよいのか）や、運転できない高齢者の交通手段や補助があるのかなど、日常生活に直結した情報があればよいと思う。 (女性 50代)
- 歴史的資産がたくさんあるのに、富士宮市に負けている気がする。もっとアピールできれば市全体が盛り上がると思う。シラスやお茶、ゆで落花生など、市民以外でも楽しめる市の施設があるとよいと思う。 (女性 50代)
- 広報担当が誰なのかということだが、子ども目線や高齢者目線で一般の方を広報に使ったらよいのだろうか。 (女性 50代)
- 広報の仕事について具体的にどのような物があるのか分からなかった。誰のために（市民向けなのか、他地域の人向けのPRなのか）、どのようなことを目的としているのか。なぜそれをする必要があるのか。それによりどのような効果が実際に得られているのか、知りたい。一つ一つのプロジェクトにかかる費用と、費用対効果をデータで知りたい。 (女性 50代)
- 先日の自転車競技など、行事を教えてほしい。 (女性 50代)
- 外国人向けにごみの出し方を詳しく分かりやすく伝えられるようにしてほしい。英語だけでなく中国語やポルトガル語、スペイン語などを使って、もちろん日本人に向けても周知徹底してもらいたい。分かっている人が多過ぎる。ごみステーションが荒れてしまう。 (女性 50代)
- スマホやパソコン等を持っていても、全ての人がSNSをやっているわけではないので、全ての人に情報が届くよう配慮してもらえるとよいと思う。 (女性 50代)
- 富士市にできた新しいお店の情報はうれしい。 (女性 50代)
- 自分が悪いと思うのだが、自宅で過ごすことが多いせいか、市でのイベント等の情報が認識しづらくなっている。一度目にしている、すぐに忘れて終わっていることもある。 (女性 50代)

- 今回のアンケートで富士市の情報を得られる手段が意外に多いことが分かった。しかしインターネットが苦手という人は多いと思う。「広報ふじ」は手軽でよいと思う。市の同報無線放送は聞き取りにくい。(女性 50代)
- コロナ情報は知りたい。(女性 50代)
- 富士市のよさ、魅力をアピールする方法や手段が見えてこないように感じる。いつの間にか設定された「富士山しらす街道」、「金時」さんで初めて知った「ほうじ茶宣言」、今年は実施された「甲子祭」。住民が知らないなんて、あり得ないと思う。先日テレビで岩本山のカフェを紹介していた。そういった方法からやってみてほしい。富士市民の「まあ、この程度で…」というぬるい感じを逆手に取って、自虐的に攻めるのもアリかも。とにかく富士市をどういう方向に持っていきたいのかというビジョンが伝わってこない。我がまちを愛するからこそ、ぜひプロモーションを頑張ってもらいたい。読んでほしいとか、聞いてほしいとかの「待っている感」が怠けていると感じる。(女性 50代)
- 富士市のブランドメッセージを初めて見たとき、何のことだか分からなかった。県外の友人に「どういう意味か分かるか？」と聞いても「分からない」と答えた。もっと分かりやすくインパクトのあるブランドメッセージにしてほしかった。(女性 60代)
- 現状のままでよいと思う。(女性 60代)
- 富士市の魅力をたくさん伝えてほしい。富士山への関心が薄い人もいるので、日本の中でもこんなに大きな富士山を目の前で見られる感動を伝えてほしい。(女性 60代)
- 富士市の魅力をアピールするのが伝わらない。(女性 60代)
- コロナが流行し始めてから、富士市では今でも毎日多数の感染者が出ている。しかし、個人情報や中傷などの関係なのか、人数のみでほとんどの情報が流れてこなかった。大体この辺りで発症した等の情報があれば防ぎようがあるのに、何もないうままでは防ぎようがない。富士市は、静岡市や浜松市に次いで県内で3番目くらいの発症者数なのに、この2市に比べるとあまりにも情報がなかったことに疑問が残る。(女性 60代)
- 難しいと思うが、必要な人に必要なときに必要な情報が届くことが大切だと思う。情報が偏りがちになる傾向があると思うので、このことが必要だと感じる。多様化する市民のニーズに答えてほしい。市民が互いに協力し合えるよう架け橋としての役割を重視してほしいと思う。期待している。小、中、高、大学生などの若い方へのアンケートもよいと思う。(女性 60代)
- 特に不満はない。(女性 60代)
- 高齢者世帯なので携帯電話もない。電話とファクスだけで暮らしている。情報収集には気を配っているつもりだが、私共につながらない物が多くなっているのではないかと考えることがある。(女性 70代以上)
- 目が悪くなったので、読む物ではなくテレビで見るほうがよい。(女性 70代以上)
- 今の時代、スマホが色々とタッチするだけで教えてくれるし、テレビをつければニュースには事欠かないし、確実なことだけ年初めに通達があればよいと思う。ごみ出し、健康保険の納め、余分なことはいらぬと思っている。(女性 70代以上)
- 昔より随分と内容、方法ともに充実してきたように思う。ただ、いろいろな手段があるので全てを使いこなすには無理があるように思う。このアンケートで知った方法もあった。(女性 70代以上)

- 市内の小中高校の校内ニュースなど、高齢なので学校のことが全く分からず、家の前を登下校する子どもたちに声をかけたいこともあるので。(女性 70 代以上)
- 他市に比べて富士市のことを知る要素が少ないように思う。もう少し特徴的な、老若男女が目を引くような富士市についてもっと分かりやすく宣伝をしてほしいと思う。(女性 70 代以上)
- 災害時の避難について、大雨と地震の避難先は違うのか。地区まちづくりセンターの避難所では受け入れ人数が少ないような気がする。いざというときに慌てないように、この点を広報してもらいたい。(女性 70 代以上)
- 広報があることによりいろいろな知識を得ることができ感謝している。(女性 70 代以上)
- 最近の傾向として何事もパソコンやスマホを利用するように世の中がなってきたと強く感じる。私は 70 歳以上の高齢者だが、スマホは持たない。そういう機器を持つ者に利益が偏り過ぎていると感じている。例えばマイナンバーカードを作ればポイント付与とか、やっている。しかし、視力も衰えてきて画面を見るのもつらい。コロナワクチン予約等は同居の子どもに頼っているが、もしそういうことができない高齢者はどうして乗り越えているのかと心配である。紙面による情報公開(「広報ふじ」や「私の便利帳」)は疑問が出たら再度見ることができる点がよいと思う。紙のまち富士市としても、紙による媒体のよさも残してほしい。(女性 70 代以上)
- 私は富士市は住みやすい所だと思う。天気がよければ毎日のように富士山を仰ぎ見ているし、富士山カメラでもいつも見ている。最近気になっているのは事件等の発生情報、不審者出没情報で、毎日のように届く。大変なことにならなければよいね、と話している。コロナ感染者も富士市は少し多いように思う。新幹線の関係かな、と話している。(女性 70 代以上)
- 今年の 3 月に実施された自転車競技は P R が行き届いていなかったと思う。当日は市内の中心部で交通大渋滞が発生して、市内の医院に到着するのに時間がかかり大変だった。このような行事はほかの場所で実施すべきだ。やるなら十分な P R を徹底すべきだ。今後はこのような行事を実施しないでほしい。(性別不明 年代不明)
- まあまあだと思う。(性別不明 年代不明)

9 市政について 25 件

- 観光で売りたいのか、産業で伸ばしたいのか。最近の富士市行政は迷走が見られる。富士宮市、沼津市、三島市に人口は勝っているのに、観光や全国からの知名度で負けているのは怠慢と慢心だろう。昔の栄光(紙)にすがって変化をしないまちに未来はありますか。全国的に見て、富士市は誰も知らないと自覚して、目立つ政策やまちづくりをしてほしい。(男性 30 代)
- 吉川越について思うことはありますか。未来の子どもたちはこのことを不安がっている。富士市としてこのことをしっかり考えてほしい。何をしても OK な世の中になっている。富士市として吉川越について発言してもらいたい。(男性 40 代)
- 富士市といえばこれ! といえる物や文化を創出し、産業や観光面のボトムアップに尽力していただきたい。(男性 40 代)
- シティプロモーション課は廃課してほしい。いらぬ。(男性 50 代)

- 富士駅と新富士駅を連結するプロジェクトを推進してほしい。道路（歩道）の劣化がひどい。ウォーキングをする人も危なくない整備をお願いしたい。富士山の自然と工場の夜景をセットでアピールするのは不自然。工場が少なく、煙突がなく、大型トラックの少ない、クリーンなまちをつかってほしい。最近では高層マンションがたくさん建設されている。高さ制限の条例をつくり、どこからでも富士山が一望できるまちづくりを進めてほしい。（男性 50代）
- 広報に注力する必要性に疑問を感じる。ほかに注力すべき項目があるのでは。人口増のため税金を少納税で、人口増が負担大（付与額の増）となることと考える自治体がある。ソフトバンクの孫氏、ユニクロの柳井氏など、高額納税者を一人、住民票を移させるほうが効果大である。都内区割のように、刑務所の移転により住民増加による国の補助金を受けることのほうが得である。人口を増加させるためには職域の充実により勤労年齢者をふやす方を望む。大昭和、王子製紙跡地をどうするのか。現市長の考えを聞きたいものである。（男性 60代）
- 人口の割にまちが栄えていない。新幹線の駅があるのに周りも寂しい。富士駅と直結していないので、とても不便。（男性 60代）
- 元吉原地区はバスの本数が少なく不便で、年配者に対してやさしくない。（男性 70代以上）
- 市民の暮らしをサポートすると言っているが、エコトピアの「ふじかぐやの湯」など公共施設の利用料金が安い気がする。地区まちづくりセンター等に台風のときに一時避難するが、テレビが設置されていないのは、今の時代に考えにくい状況だと思う。改善を願う。（男性 70代以上）
- 目に見える行政をお願いしたい。（男性 70代以上）
- 岩本山の景観（特に梅園と富士山）があまりよく見えない。前方の木が高いため富士山が見えにくいので、見えるようにしてほしい。（男性 70代以上）
- 市役所と地域のパイプを密にしてほしい。具体的には、地域からの相談などを聞いて、早く対応してほしい。また、問題解決などを指導してほしい。（男性 70代以上）
- 自転車通行について。市内の道路事情で無理な気がする。自転車専用道路を確保してからだ。（男性 70代以上）
- 道路が変則、特に交差点。歩道が整備されていないし、段差がある。街灯が少なく暗い。公共交通が不便。交通マナーが悪い。赤信号無視、横断歩道で止まらない。（女性 20代）
- 市の駅、新幹線の駅周りの商業、交通の開発が進めば、もっと住みやすくなると思う。まちの魅力など、市民への様々なことの認知度を高めれば、もっとよい都市になると思う。（女性 30代）
- 子育て世代への広報がある一方で、自分は就職氷河期世代で派遣切りに遭い、数年前に東京から実家へ戻ってきたが、氷河期世代の単身者へのサポートや取組が、富士市にはないのかと残念に思っている。非正規の不安定な仕事しかなく、将来を不安に感じる。富士市はそれだけでなく工場の交代制の仕事などばかりで、女性向けの安定した仕事を探すのが大変だと感じている。（女性 40代）
- 子どもが遊べる遊具や水遊び場があるような場所をもっと多くつくっていただけると、若い世代にも暮らしやすくなると思う。それと同時に商業施設も増えるとよいと思う。また、駅の周辺の治安や道、駐車場、アクセス等を整備していただくと安心する。駅や吉原商店街のアーケードもよいと思うので、有効利用できたり、清潔でおしゃれな雰囲気が出たりすると、富士市全体のイメージが変わると思う。東京にも静岡県の中でも近いし暮らしやすいと思うので、今までのよい物を継続しつつ、新しい風も取り入れると、もっと暮らしやすいまちになると思う。（女性 40代）
- 住んでいる地区から富士駅または吉原駅に直通で行くバスがないのは不便に思う。（女性 40代）

- 富士市新型コロナワクチン接種の予約で、コールセンターを利用させていただいた。担当者が手際よく丁寧に希望通り予約を取ってください、とても感謝している。ありがとうございました。
(女性 60代)
- 車のための道路はあるが、人が安心して歩ける歩道が少ない。ベビーカーを押す人も目の不自由な人も、小さい子ども連れでも安心して歩ける歩道付きの道路を整備してほしい。歩道がない、狭い、段差がある。
(女性 60代)
- 市の窓口になっている人の対応の差が大きい。市民にとって納得できる指導（理解できる会話、対応）をしてほしい。特に子育てに関しては対応者によって手続方法が違う。年配の人の顔色を見ながら手続方法を決めるなど。広報されたことが現実スムーズに執り行われているか、調査する人たちも必要なのではないかと思うときがある。
(女性 60代)
- 氏名の後に、男性、女性を申してほしい。男性でも女性のような名前がある。またその逆もある。
(女性 70代以上)
- 富士市には娯楽施設が少なく、移手段のない高齢者や学生など、若干寂しい。以前はパピーに映画館があり、買い物も同時にできた。富士駅周辺が寂しく、外出することがなくなった。
(女性 70代以上)
- 防災にもっと親身になってほしい。特に河川の川底の土砂など。今一番に怖いのは河川である。避難所が明確でない。ルールなどが不適切。毎年配布してほしい。
(性別不明 50代)
- 商業施設を増やしてほしい。
(性別不明 年代不明)

10 その他について 3件

- アンケートの設問が多過ぎる。相手の時間を何だと思っているのか。こういうところが富士市を好きになれない理由。
(男性 60代)
- 救急医療当番医にはとても助けていただいている。
(女性 60代)
- 今話題になっているジェンダーフリーの観点から、もっと女性が主張してもよいと思う。食育は女性のほうが適格かと、統計上女性の名前で封書が出されていることもあるのですよね。
(女性 70代以上)

問 42 食育についてのご意見

1 子どもの食育・学校給食・行事食について 60 件

- 学校授業などで食育について考える時間を増やす。食べ物の大切さやフードロスについて知ってほしい。 (男性 30代)
- 幼少期からしっかりと行うべきだと思う。学校教育の中に積極的に取り入れるべきことだと思う。核家族が増えているため、家庭内で行えなくなっていると思う。和食や行事食が減ってきていると思う。子育て世帯に、食育についてもっと啓発したほうがよいと思う。 (男性 40代)
- 食品の好き嫌いの克服は、どのようにしたらよいのか分からないため、好きな物だけ食べるようになってしまう。小さいころからいろいろな物を食べるような教育があると、生産して、廃棄するサイクルがなくなると思う。あと、食事のマナーに関して家庭でなく学校でも教えることが一般常識として成り立つと思う。 (男性 40代)
- 孫ができたので食育について勉強したいと思う。 (男性 50代)
- 学校の授業に取り入れるなど、若年層の段階から積極的に取り入れるべきだと思う。 (男性 50代)
- 富士市は給食が他地域に比べておいしいので、そのレシピを使って食育に結びつけるとか、地産地消を進めるとか利用できるとうい。 (男性 60代)
- 食育とは違うかもしれないが、給食で米粉パンをもっと使ったらよいと思う。小麦が高く、でも米は余っているというのであれば、米粉パンの回数を増やすのはどうだろうか。金額の面はよく分からないので、いろいろ問題はあるのだろうが、小麦アレルギーの子どもたちも米粉パンなら食べられるので、どうだろうか。 (男性 60代)
- 近くの公園に午後子どもたちが数十人集まってくる。子どもたちの帰宅後、駄菓子の袋ばかり残っている。幸い給食で栄養バランスのとれた食事ができているので感謝している。朝登校する子どもたちを見ては、中に顔色のよくない子がいる。朝食を取れていない心配がされる。みんなが健康であるように。 (男性 70代以上)
- 学校教育としての食育が大切である。 (男性 70代以上)
- 食べることは健康維持、生きること。小・中学校の給食は育児放棄、低所得者には居場所としてありがたい。公民館に月 1 回でも食堂開催などあるとうれしい。 (男性 70代以上)
- 農業体験ができる場所が増えるとよいと思う。小学校のときの農業体験などで食育について知る機会があったが、中高生で学ぶ機会がないと思うので、取り組みば大人になっても食育の意識を持てると思う。 (女性 20代)
- 行事食に関しては「取り入れる」という意識はなく、その季節になると自然と食べたくなるという意識に近いので、「食を通して伝統を学ぶ」などの目的で周知するより、「食の選択肢の一つとして紹介する」くらいの位置づけでよいのではないかと感じた。 (女性 20代)
- バランスのとれた食事が大切なのは理解しているが、子育て中に自分の食事に気を配ることは難しく、つい手を抜いてしまう。子どもがもう少し大きくなったら、食育にも力を入れていきたい。 (女性 20代)

- 私は今年から新入社員でパティシエとして働いているため、私自身、食に関してとても興味・関心がある。そんな私は、食育については高校や中学でももっと食物にふれる機会があればよいと思う。小学校ではそれなりに野菜を育てたり、収穫したりといった授業があったけれど、中・高では極端に少なくなったり、なかったりするの、成長して自分でもっといろいろな考えが広がる時期に植物（野菜）を育てたり、農業体験があったりすれば、もっと食に関する意欲が高まると思う。
(女性 20代)
- 私は幼稚園教諭をしているので、子どもへの食育活動も積極的に行っていきたいと思っている。
(女性 20代)
- 食事は子育てに多いに影響すると感じている。しかしながら不得意なこともあり、してあげたい気持ちはあるが億劫である。仕事もあるので、片づけを考えると嫌になってしまうことがある。
(女性 30代)
- スーパーに市内の小学校の給食の献立が貼ってあり、それを見ると栄養バランスの大切さがよく分かるのでよい。小学生のころから食育について考え、学ぶことが大切なのだと思う。
(女性 30代)
- 食育は進めたいが子どもの好き嫌が多く、手軽にいろいろな食材を試せるようなメニューを知りたいと思う。
(女性 30代)
- 小学生の子どもがいるので、食育について気をつけていきたいが、なかなか改めて食育について時間を取ることができない。
(女性 30代)
- 栄養士をしている。知識はある程度あると思っていたが、子どもが生まれて、実際に行動に移すのは難しいと思った。偏食が多いし、思い通りにいかないの、できる範囲で行うことや続けることが大事だと思う。大人も、一日の中のトータルでバランスをとることを目指している。
(女性 30代)
- 子どもがいるので、見た目も楽しく、おいしく食べられるように考えて作っている。休みの日は、遊びながら一緒に作っている。自分で作るとおいしく感じて、たくさん食べられるようだ。自分自身は、大変にならないように考えながら作っている。品数を多く作ることで、バランスよく食べられるようにしているが、それはどうしても夕飯だけになってしまう。時間があれば、朝食も品数を多くするようにしている。
(女性 30代)
- 子どもにしっかり教えていくことが大切だと思う。
(女性 30代)
- 自分の子どもには、食物や生産者への感謝の気持ちを忘れないこと、食事のマナー、食べ残しをしないことについて特に伝えている。コロナ禍になってからは学校で黙食をしているので、家族で会話を楽しみながら食事をするのも大切にしていきたいと思っている。
(女性 30代)
- 学校給食の献立はとても理想的だと思うので、参考にしてみたい。小・中学生がいない家庭でも、子どもがどのような物を食べているかを富士市のホームページで知ることができたらうれしい。
(女性 40代)
- 家では行事ごとに作っている。
(女性 40代)
- 学校給食がちょっとやり過ぎかと思う。シンプルな日本の物が少ない。
(女性 40代)
- 子どもが2人いるので、食生活には気を遣っている。地産地消はあまり考えたことがないので、これからは産地も確認してみようかと思う。
(女性 40代)
- 子どもたちに伝統や食の楽しさ、料理、地産地消、安全性などを伝えるとともに、常に自分自身もアップデートし学んでいくことが生活の基本だと思う。
(女性 40代)

- 職業柄、子どもと接することが多く、そこで感じることは幼少期の食事の大切さや食事経験（食に関わること全般）を豊かにしていくことの必要性である。食べることの意味を家庭や学校で教えていってあげたらと思う。
(女性 40代)
- 子どもがいるので、食育にとっても関心がある。食育のイベントをもっと増やしてほしい。
(女性 40代)
- 学校で食育についてのアンケートがあるが、家庭にプレッシャーがかかる。アンケート結果がよくなるようにするには、お金も時間もかけなければならない。仕事をしていたり、塾があったり、時間をかけられないときもあるし、生活が大変だからあまりお金をかけられず、見切り品や安い物を買わなければならない。子どもには健康でいてほしいし、よい物も食べさせてあげたいが、今の日本の状態では難しいと思う。食品が値上がりしてばかりだし。アンケートをやるたびに気にはするし、親としてもがっかりする。やってあげたいのにできない状況のほうを改善してほしい。夏休みのお弁当の宿題も親の頑張り次第みたいな人が上位だし。いくらお弁当にお金をかければよいのだろうか。
(女性 40代)
- 小・中学校の給食について。パンや麺類が多過ぎる。子どもたちの大事な成長期には、米飯を基本とし、牛乳ではなく緑茶を飲ませてほしい。昨今、ようやく地産地消の取組も給食メニューに一部反映されてきたが、理想は「オーガニック給食」であり、地場の自然農法で育った野菜や米を、もっと行政やPTAの知恵により、未来を担う子どもたちの給食に取り入れてほしい。市販で売られているゼリーやヨーグルト類は全く必要ない。税金の使い方を食育の本来の意味に使っていただきたいと思っている。千葉県いすみ市、木更津市の学校給食米の取組を参考にしてほしい。
(女性 40代)
- 夫婦共働きで食事を作る時間、子どもとゆっくり話しながらの時間がとても少ない。もっと食に対して費用と時間を費やすことができれば、料理の幅も広がり、今よりもっとバランスのよいメニューを作れると思う。そして、子どもとの食事という大事な時間を共有することで、心身ともに安定した子どもが育っていくと思う。「食は人の天なり」である。
(女性 40代)
- 子どもたちに添加物があまり入っていない物や、地元の食材は何があるのかななどを教えることで、家庭でも食育を意識できたらと思う。食育はとても大事だと思う。
(女性 40代)
- 小さいうちからやるのが大切だと思う。
(女性 50代)
- 畑が少ないことや家庭で栽培ができない中で、子どもが収穫体験だけでもできるチャンスが、もっと学校であれば食に対する関心も増すと思う。幼稚園で芋や大根を持ち帰り、一緒に料理をしたり、ふだんは捨てる大根の葉も子どもの収穫した物だと余すことなく使ってみたいと、料理の工夫もしたりした。子どもも苦手な物を自分の収穫した物はおいしく感じられている様子は忘れられない。
(女性 50代)
- 子どもが小学生のとき、食育という言葉を知った。子どもの成長とともに、食育の大切さも実感した。食事を通して身体や心が健康でいられるよう、日々過ごしている。
(女性 50代)
- 学校行事に取り入れる。大切さのアピールを増やす。収入とのバランスを行政が手助けする。
(女性 50代)
- 食育は子どものときからの取組が大切だと思う。各家庭では生活スタイルの違いがあるので、学校で充実した取組があるとよいと思う。
(女性 50代)

- 娘の中学生時代に中学の母親委員長をしていたとき、調理実習をするなど、食育について楽しく学んだ。私は大学で栄養の勉強をしてきたので、食育の大切さは分かってはいたが、実際に仕事と子育て、長男のため親と同居や介護があり、なかなかうまく育てられなかった。これから子どもたちの時代になるが、手作りの料理のよさを伝えていけたらと思う。スマホを見て、作り置きレシピを作ってあげると喜ぶ。食を通じてみんなが健康で明るい富士市になるとよいと思う。(女性 50代)
- 幼いころからの家庭生活、親の考え、知識が大切だと思う。(女性 50代)
- 体内に入れる食べ物で体や脳が動いていると思うと、特に子どもにはバランスのよい食事をさせてあげたいのだが、毎日塾等で帰宅が遅く、食事を済ませて帰ってくるので、体内が大丈夫か心配ではある。(女性 50代)
- 子どもも大きくなり、別居中なのでどうかと思ったら、案の定、あまり自炊をしていないようなので、もっと幼いときからごはん作りやおいしい物を食べに行くとか、力を入れておけばよかった。(女性 50代)
- 子どもたちが小学校の授業から学ぶことが増えたと思う。食育が必要な理由を子どもたちが理解できるとよいと思う。(女性 50代)
- 家族の健康を維持するために、食育は大切だと思う。子どものころから栄養の知識、調理の知識、食材の選び方、行事食など、食生活を豊かにする教育は、人生を決める要因にもなると思う。男女平等、台所で楽しく作ることを進めていってほしいと思っている。69歳の夫は絶対に食事作りをしない。これはとても不安である。(女性 60代)
- 我が家では、家族等の誕生日には親族が我が家に集まり食事をするを10年以上続けている。誕生日を迎えた人の好みのメニューを作り、食事をし、その後ケーキ(買う場合と作る場合がある)にロウソクを灯して、皆で歌を歌ってお祝いしている。10人前後での食事だが、今月は誰々の誕生日だね、何のおかずかな、とか楽しみにしている。これからもずっと続けていきたいと思っている。(女性 60代)
- 幼児期や成長期などの家庭環境により、将来の食に対する考え方が大きく変わると思う。家族の健康を考え、栄養バランスを考えて調理するなど、食事が家族団らんの時間となるのが大切だと思う。(女性 60代)
- 昔は自給自足に近い生活、親は物のない時代に子育てしてくれたことに感謝している。空腹はつらく、今も体が覚えている。山の奥で育ち、水と空気はピカイチだった。テレビの「おしん」と同じ食育、食生活だった。病気、手術からの退職、おかげさまで一日一日を大切に過ごさせていただいている。(女性 60代)
- 好きな物を好きなだけ食べる今の若者、子どものことが心配である。バランスのとり方、体の成長に必要な栄養の話を学校や社会でもっとすべきで、自分の体の健康は自分で守る意識を持ったほうが、豊かな人生を生きていけると思う。(女性 60代)
- 今、子どもたちとの食事、手作りを大切にして、一緒に作ったり食べたりすることの楽しさを味わってほしい。朝食を抜くことをやめてほしい。ダイエットの必要性は、するしないを考えて、バランスのよい食事、規則正しい食事をするを考えてほしい。男性も食育にもっと参加してほしい。(女性 60代)

- 中学校の家庭科教員をしていた。食育推進室には大変お世話になり、素晴らしい授業をしていたので、私自身も大変勉強になり感謝している。中学校には食育推進室のご支援、そして栄養教諭の配置、活躍がある。しかし長年正規の授業として食育を担ってきた家庭科教員が全ての学校に配置されているわけではなく、免許外として他教科の教員が家庭科を担当している学校も少なからずある。市内全ての生徒が30時間程度、食育を系統立てて学ぶためにも、全校に家庭科教員の配置は必要なことだと考える。よろしくお願いします。(女性 60代)
- 食が豊かになり子どもたちが自由に好きな物を豊富に手にすることができるようになった現代、食育の大切さを伝えるのも難しくなっている気がする。だからこそ正しい食育を伝えることがとても大切だと思う。(女性 60代)
- 昔からの行事食は子どもたちにも伝えていきたいと思う。(女性 70代以上)
- 10年ほど前まで学校調理員を28年間勤めた。勤務中、ほかの調理員や栄養士の方々の考え方や諸先生方、生徒さんたちの声を身近に聞いて、毎日の仕事に責任と楽しさを感じていた。世界が変化し、子どもたちの生活も全体的に向上していればよいが、不安は増すばかりである。離任式で「毎日同じ時間に安全で温かな食事ができることに感謝してください」と伝えたことが、こんなに早く不安につながるとは想像できなかった。幸せであるように祈るばかりである。(女性 70代以上)
- 孫たちにバランスのとれた食事をさせたいと思うが、なかなか思うようにいかない。(女性 70代以上)
- 食事は人間にとって一番大切なことだと思っている。我が子の幼児期にもっと気を配ればよかったと思う。(女性 70代以上)
- 食育は低年齢から始め、日常的に少しずつ身につくように、野菜作りや工場の見学、買い物、ごみ処理など、いろいろ体験しながらやったらよいと思う。また、富士市は特に茶畑や梨畑の見学など、身近なことからやったらよいと思う。富士市はおいしい水とお茶があるのだから、もっと学校や公共施設でお茶を利用してほしい。(女性 70代以上)
- 子どもたちの食育が心配である。(女性 70代以上)
- 子どもころからの教育が大切。親の意識が高ければ、子どもも関心を持つようになると思う。(性別不明 年代不明)
- 好き嫌いのない子どもをつくる。親子で作って、できるまで体験して感謝して食べる。(性別不明 年代不明)

2 料理・家庭・食事について 43件

- 出汁や旨味といった物にふれる機会が減ったように感じる。調味料で便利に簡単なおいしい料理が誰でも作れるようになったが、やはり祖母や母が作った料理がおいしかったし、それを再現することも再現できる人もいなくなってしまった。働き方や家族構成の変化で仕方ないことだが、非常に残念なことであるし、危ないことのように思う。カロリーオフや糖質オフで逆にリスクを取られていることに、もっと危機感を持ったほうがよい。子育ての仕方や生き方だけでなく、料理についても世代間でうまく引き継ぎができていないようで、とても残念である。(男性 30代)
- お弁当を作るときに、少ない量で品数を増やしたい。ただ現状は、余分な量を高値で購入するので、お弁当の具材が減るときは期限が切れて捨てることになる。子どものお弁当を作る方のための食品販売があればよいと思う。(男性 40代)

- 家族で食事、一番大事。 (男性 40 代)
- いつまでも食事がおいしいと思えること。 (男性 60 代)
- 自分では一切作らないので妻に任せている。ある程度健康でいられるので、このままでよい気がする。 (男性 70 代以上)
- 腹一杯から高齢となり、食も細くなり決まった量しか食べない。 (男性 70 代以上)
- 規則正しい食事に気をつけている。 (男性 70 代以上)
- 毎日の食事の支度が大変だ。 (男性 70 代以上)
- 好き嫌いなく食事できている。 (男性 70 代以上)
- 小学生、未就学児がいるので、なるべく手作りを心がけている。外食や惣菜は自分の手抜きのためではなく、子どもたちのご褒美のためにするようにしている。 (女性 30 代)
- いろいろな意味で食を充実させたいが、メニューを充実させるためには時間、材料費、献立についての知識等が必要だし、生活リズムの違う家族がそろって食卓を囲むこともなかなか大変なことだ。母親として、食育はとても大切なことだと分かっているが、父親の協力も必要だと改めて感じる。子どもたちに男女関係なく食への関心を持たせていくことが、将来的に大切になってくるのかと思った。 (女性 30 代)
- 何を食べるかは食の安全性や栄養の面でとても大事だと思うが、誰とどのように食事をするかということも大切であるのではないかと思う。おいしく食べることはもちろんだが、楽しく食事できることが、個人の見解だがかなり重要であると思っている。 (女性 40 代)
- 最近は世の中が忙しい毎日を送っている。大人だけでなく、子どもも毎日とても疲れている。体だけでなく、心の疲れは食事が大事だと思っている。学校で嫌なことがあったり、仕事で精神的につらいことがあったりしたときに、帰ってきて手作りの料理を家族で囲むことでホッとした気持ちになったり、温かい気持ちになれたりする。生きにくい世の中でコロナ禍の今、心のこもった手料理をぜひ皆さんも実践していただきたいと思う。幼少期にいつも自分で作った料理を一人で食べていた経験者より。 (女性 40 代)
- 楽しく食べることが一番だと思う。もちろん栄養面でも気をつけながら。 (女性 50 代)
- 我が家では一日のスタートは朝ごはんからと決まっている。たとえ忙しくても食欲がなくても、必ず朝ごはんは取るようにしている。朝ごはんは一日のパワーの源である。 (女性 50 代)
- 食育はとても大事だと思う。ただ、今はアレルギーを持っている子がたくさんいたり、共働きで時間がなかったりなど、いろいろあるので大変だと思う。 (女性 50 代)
- 毎日手作りの物を食べている。 (女性 50 代)
- 家での食事は大事だと思う。料理の内容はともかく家族が心豊かになる気がする。 (女性 50 代)
- 今の女性、特に母親は忙しい。スーパー等の惣菜を利用して、上手に食育できればよいと思う。 (女性 50 代)
- 家族との食事でも、親や子がそれぞれスマホを見ながら会話もなく食事をする姿が増えたような気がする。ながら食事をやめ、おいしかったね、味が濃いね、などの会話も食育につながると思う。 (女性 50 代)
- 子育て世代が夫婦共働きが当たり前になり、手作りの料理を食べることが減っているように思うが、それをその世代の人たちは何とも思わないことに危機感を覚える。 (女性 50 代)

- 長年、産科病院でたくさんの家族を見てきて思うことだが、母親になる人たちへの見目が厳しいということ。覚悟を持って結婚、出産した人でも「お母さんなんだから！」の一言で、料理して当たり前、ベビーのことは責任を持って当たり前など、何気なく言われてもつらいだけである。せめて毎度のごはんを出来合いの物で済ませてOKよ、という空気をつくってあげたい。朝がドーナツとミルクでもよいではないか。立派な給食というお昼ごはんがある。愛情云々なんて言っていると、ママになる人がいなくなる。(女性 50代)
- 毎日調理することに振り回されず、土日に手のある時間に下調理、常備菜などを作ってしまい、日々食卓に出している。ご飯も毎日炊かずに2～3日分作り、冷凍してレンジで温めて食べる。要は工夫が必要。朝食のときに昼夕分も段取りしてしまう。新聞で山口祐加さん(自炊料理家)の話に感銘を受けた。(女性 50代)
- 食事ができることに感謝し、楽しく食べることを心がけている。(女性 60代)
- 食育はとても大切なことだと思う。家族の健康を第一に考え、食事の準備をしている。(女性 60代)
- 家庭ではいろいろな理由で家族と食事ができないこともあるが、やはり一人で食べる機会は少ないほうがよいと思う。家族や友人との食事は楽しく、どんな物でもおいしく感じられる気がする。栄養も大事だが、環境も大切だと感じる。地域で取れた新鮮な季節の物が手に入りやすく、上手に食卓に出せばよいと思う。最近は無人販売をよく利用し、助かっている。(女性 60代)
- お腹いっぱいになればよいでは寂しい。忙しいは理由にならないと思う。時間を有効に使っていききたいと思う。(女性 60代)
- 市販食品も使いながら、毎日のことなので無理せず料理をし、食事をするのは大切だと思う。地産地消も利用していこうと思う。(女性 60代)
- 50歳代まで休日は朝食と昼食を兼ねていたが、60歳過ぎからは朝・昼・夕と3食食べるようになった。まだ働いているため、無理なく手作りをしていきたいと思う。枝豆、グリーンピース、とうもろこし等、地場産の物を季節を感じながら買い物をしている。(女性 60代)
- 問27の設問で、3つそろえて食べることが1日に2回以上必要であるのか疑問である。食生活、食習慣は人それぞれ。自分は食べたいときに食べたい物を食することができる環境に今あるが、今日食べる物が何もない、買うこともできない人もきっといるはずだと思うと、こんなに食べ物が毎日廃棄されている日本、何とかならないものかと思う。自分に何かできることはないか、考えているところである。(女性 60代)
- 好き嫌いをなくすことは難しい。子どものときには食べられなくても、大人になるにつれ食べられるようになることもある。その時々季節の物を取り入れることである。(女性 60代)
- 食事に関しては以前と変わらない。いつも栄養素を考えて料理を作っている。(女性 70代以上)
- 食物についてあまり欲がなく、お腹が空くから食べるという状態である。気が向けば料理もするけれど、自分一人のために料理をするのがだんだん面倒になっている。本当はしっかり自分一人でも食事を作らなければいけないと思って、頑張ろうと思う。(女性 70代以上)
- 日本人として基本に戻ることを考えてみる必要があると思う。とにかく白いご飯を炊いて味噌汁を作ってみよう。そこから食生活は始まると思う。(女性 70代以上)
- 親が作って食べさせてくれた食事をする。新しいメニューは慣れない。毎日おいしく作って、出汁を取って、薄味に気をつけて、手間と時間をかける。残った物はアレンジして食べ切る。恵みに感謝してありがたく頂く。(女性 70代以上)

- 結婚して 50 年余り、朝ご飯を炊き味噌汁を作り、姑に仕え、毎日朝から晩まで食べることに心がけて、外食や出来合いの物を買ったこともなくやってきたから、家族も家で作って食べることが当たり前。今さら食育なんてと思っている。大根、にんじん、芋をそのままじゃ食べられない、切って煮て焼いて炒めて、と毎日やってきた。姑に感謝している。大変な 50 年だったが今さらやめられない。(女性 70 代以上)
- 食事は作るものと思っているので苦にならない。野菜等は地域の朝市などを利用して新鮮な物を買って食べるようにしている。(女性 70 代以上)
- 今風な物はなかなか作れず、煮物とかが多くなるが、それも必要なことと思う。いつも「ま・ご・わ・や・さ・し・い」を使うように心がけている。(女性 70 代以上)
- 手作りにこだわっている。好き嫌いなく偏らない食事が大事。(女性 70 代以上)
- コロナの拡大の時期に関連するというよりも、年齢が増すにつれて生活全般が大変になってきたと感じている。日常の用事をこなすにも時間と労力がかかり、食事の支度に時間をかけるのも難しく、週 1 回の宅配を利用して何とかしのいでいる。コロナを恐れるあまり家の中にばかりいると精神的に参ってしまうので、時には外食も利用して気分転換も必要なことだと思う。バランスに気を配り、健康に気をつけていけたらと努力したい。(女性 70 代以上)
- 食事の支度をする時間が少ないと、どうしてもできたものを買ってしまうと思うが、上手に時間を使って少しでも手作りするようによい。(女性 70 代以上)
- 味噌を手作りして、朝食はご飯と味噌汁を用意し、若い人たちが食べる回数が少なくても基本的な食生活を若いころから心がけている。いつの日か孫が大きくなったとき、ふと気がついてくれればと思っている。(女性 70 代以上)
- 我が家は二世帯住宅であり、家族と食事をするのがないので、たまには食事をしたい。友人と外で食事をしていろいろお話をするのが楽しい。(女性 70 代以上)

3 健康・バランスについて 64 件

- バランスよく食事したい。(男性 30 代)
- 食事は健康の源であるため、食に対する知識や食べ物を大切にすること、口から健康においしい食事を食べられるようにすることなどを学ぶことは大切だと思う。子どもの頃から食育を学んでいくことが健康な身体づくり、精神づくりにつながると思う。(男性 40 代)
- おいしい物を食べることで体も心も元気になれると思う。食事は大事。(男性 40 代)
- 食育は生活していくために必要なこと。健康的に過ごすために大切。病気にならないための手段。(男性 40 代)
- 将来の体のことを考えると必要だと感じた。(男性 40 代)
- 高血圧症で経過観察のため投薬治療をしていることから、現在食生活を見直し、なるべく野菜中心の食事を心がけている。(男性 50 代)
- 栄養バランスを考えて料理したいのだが価格が高騰してしまうと、思った物が買えないため、そこが不便である。(男性 50 代)
- 発酵食品を食べるようにしている。(男性 50 代)

- 大学生の子どもが外で買って食べる回数が増えたことが少し気になる。インスタント系が多いので。
(男性 50代)
- 自然食品への誘いは、何回か購入してしまう人がいると思う。その中で本当に健康になれるかは、購入者自身には分からないと思う。高い自然食品ばかりが健康への近道でないのは事実であるから。
(男性 60代)
- バランスの取れた食生活を実践したいと常々思っているが、どうしても副菜が少なくなってしまう。
(男性 60代)
- メタボに気をつけ、バランスのよい食事にしていきたい。
(男性 60代)
- 体調の維持管理はバランスの取れた食事がよいのだが、朝食だけは守れている。
(男性 70代以上)
- 心不全の悪化を予防するために食事制限している。
(男性 70代以上)
- 血糖値が高いので毎食野菜を先に食べるように意識している。
(男性 70代以上)
- まず野菜を食べ、主食は米、主菜は魚か肉を基本に食べるようにしている。
(男性 70代以上)
- 太らないように気をつけている。
(女性 10代)
- 健康な暮らしを送るために、食育を学ぶことは大切だと思う。自分自身、アスリートとしてスポーツを続けてきて食事をする中で、バランスの整った献立を考えることの重要性を経験してきたので、もっといろいろな人にも知ってもらいたい。
(女性 20代)
- 子どもがいるおかげで、適当にすることがなく、家族全員の食育につながっている気がする。
(女性 30代)
- 主食・主菜・副菜をそろえられればよいが、無理なときはできる物でと考え、あまり熱心にならないようにしている。
(女性 40代)
- 食生活と医療には密接な関係があるので、バランスのよい食事は大切だと思う。野菜から得られる栄養価があるので、そのことを知ると「体」にとっても役立つことがたくさんある。
(女性 40代)
- 今は2人なので食材を無駄にしないように、栄養のバランスを考えないとならないし、お弁当を作っているので食べることに責任を感じている。
(女性 50代)
- 私たちが健康で豊かな生活をするために、食育にとっても関心がある。家族の食事の支度は私がやっているのですが、どのような食材をどのように調理するかを考えて買い物をしている。食育に関する情報をたくさん発信してほしいと思う。
(女性 50代)
- 歯と口の健康について。学校での歯科健診は、予防接種の個別のように家庭で行うようにして、結果を学校に提出してはどうか。う歯は治療しなければ治らないものなので、健診から治療につながると思う。大人も健康診断に歯科が導入される方向なので、歯と口の健康のまちの先駆けとして検討していただきたい。歯と口の健康が多くの疾病の予防につながり、健康長寿、医療費削減になる。子どものころから歯科受診の習慣となる。
(女性 50代)
- 生涯にわたって大切にしたい食育だが、高齢に近づくと食が細くなり、3食取らない日があってもよいのではと思うことがある。それぞれの健康状態に応じ、食べたいときに食し、必要以上に食さないことを心がけている。
(女性 50代)

- 春夏秋冬、その時期の物を食べることが一番おいしく、体にもよく、幸せなことだと思う。海の物、山の物と季節のおいしさを味わえる日本だから、おいしい物をおいしいうちに頂くことが健康にも大切なことだと考えている。(女性 50代)
- 会社の勉強会でバランスのよい食事がとても大切だと教わった。仕事をしているので食事を作る時間はあまり多くないが、具だくさんの味噌汁やスープは色々な栄養を取れるため作ってほしいと思う。(女性 50代)
- 食事は体の健康はもとより、心身の健康につながっている。一人で食事をする子どもや高齢者が増えている現在、もっと地域活動で気軽に食事を楽しめる憩いの場的な食堂があったらよいと思う。子どもと高齢者のふれあいの場等。(女性 50代)
- 野菜を多く食べることを心がけ、肉、魚、豆類、海藻類などバランスよく食べられればよい。仕事をやりながらなので、一度に全部を用意しようとせず、一日3回の食事に振り分けて考えて、少し緩めに長く続けていくことが、のちに体に表れてくるのではないかと思い、家族のことを考え作っている。(女性 50代)
- もともと栄養的にバランスの取れた食事をしていたが、昨年スポーツジムに通うようになり、タンパク質を取ることの重要性を学び、以前よりタンパク質を意識して取るようにしている。(女性 50代)
- 健康面、体調面に不安のない毎日で、毎日おいしく食事ができることを意識して生活している。家族の健康などを知るのにも、食事をおいしく食べているかで分かるような気がする。(女性 50代)
- 意識の高い方と全く関心のない方、両極端な方が周りに多い。毎日の食事は、口に入れる物は選びたいが、忙しくて手間をかけられないとき、何を食べるかは大切だと思う。(女性 50代)
- 健康は食から心がけて気をつけたいといけなことはないとは思っていても、自分自身の生活のリズムや環境により意識して取り組む余裕がないのが現状だ。(女性 50代)
- 食は一生のことで健康にも関わることなので、関心を持ち続けていきたい。コロナに感染すると、味覚に異常が出る話も聞く。そのときの食事はどうしたらよいのかなど、新しいこともいろいろ出てくるので、常に学んでいきたいと思う。(女性 50代)
- 食育は難しい。特に料理の嫌いな私のような人間には、健康のためにはとてもよいことだと思うし、3食バランスよく摂取できればよいのだけれど、年齢が上になるにつれて、ますます重要だと分かっているけれど。地産地消も価格等を考えると安いほうに手が伸びる。物価高になれば、嫌悪していた中国産も買うようになるかもしれない。(女性 60代)
- バランスのよい食生活をするにより、健康な生活を送れるのではと思う。朝食は特に毎日取ることが望ましい。(女性 60代)
- なるべく栄養バランスを考えてとるようにしている。(女性 60代)
- バランスのよい食事を作ることをより一層心がけ、夫婦で健康寿命を延ばしていけるように努力したいと思う。(女性 60代)
- 心と身体は食が全てだと思う。(女性 60代)
- 食生活が脂っこい食品が多くなりがちになってしまうこともある。簡単に調理できる物もあるし、若い人と食事を共にするとそうなりがちである。野菜を多く取り入れたい。(女性 60代)

- それぞれの年代に適した食事があると思う。食べることは体をつくること。健康を保つのは食が大事とみんなが心に思っているだろうか。自然界にある物を私たちは食べて生きている。感謝しかない。食は人をつくり、自然環境もよくも悪くもする。もっと広く深く食育ができればよいと、いつも思う。 (女性 60代)
- コロナというより、健康上の理由から食事を見直した。食事の回数や量については、個人差が大きいと感じている。正しい知識を得られるよう「啓発」の視点を持って、市民に的確な情報を常に発信してほしい。市ウェブサイトでサークル募集情報を復活してほしい。回答に余裕が必要なので、アンケートの量が多いため、1か月は期間が欲しかった。 (女性 60代)
- 今後は今以上に食品に対して関心を持ち、健康を保っていきたいと思う。 (女性 60代)
- 野菜を多く取るようにしている。外食が減った。 (女性 60代)
- 今まで通り3回バランスよく食事を作り、食べることにしている。規則正しい食生活をしている。共稼ぎのとき、子育てのときも、毎日3回。子どもが学生のお弁当も作った。社会人になっても続いた。忙しかったが楽しかった。今、ラジオやテレビ番組で料理の先生がおっしゃっている「一汁一菜」とおにぎりに、具だくさんの味噌汁でよい。 (女性 70代以上)
- できるだけバランスのとれた食事を心がけていきたいと思う。地場産物をできるだけ使用したい。 (女性 70代以上)
- 健康的な生活を送るためには必要なことだと思う。腹八分目、野菜を多く取るように心がけること。 (女性 70代以上)
- カロリーと食習慣の見直しのスタートだと思っている。 (女性 70代以上)
- 年を取ってきてやせ過ぎてもいけないので、毎日の食事をバランスよくとるように心がけている。 (女性 70代以上)
- 病気をしてからは娘に頼って食事している。 (女性 70代以上)
- 朝食は必ず食べる。バランスのよい食事を心がけたいと思っている。 (女性 70代以上)
- 栄養のバランス、食事のときの楽しさには気をつけていきたいと思う。 (女性 70代以上)
- 今は健康で普通に食生活を送っている。健康に感謝している。 (女性 70代以上)
- 食べ物が薬になると考えている。高齢の主人がなるべく元気になるようにと、日々の食事に気をつけている。手抜きをしたいと思い、宅配のお弁当を一時頼んだこともあった。確かに楽であるが、家庭菜園で取れた物などを使い切ることができず無駄になり、野菜は特に自分で調理したほうがおいしく、今はやめている。自分の体が大変になればまた考えると思うが、できるだけ頑張っている。 (女性 70代以上)
- 外食や弁当が大好きな家族なので、野菜が不足しないよう気をつけている。野菜が高くなって少し大変だ。 (女性 70代以上)
- 健康で元気に過ごすためには食育が大切だということはよく分かっているつもりだが、なかなか思うようにいっていない。もっと興味を持って勉強したい。 (女性 70代以上)
- 栄養のバランスを考えて3食全て作って食べている。息子夫婦と食事は別にしてるので、主人の健康を考えてやっている。市のファミリー農園を今年からお借りして、野菜もできるだけ自分たちで作って無農薬で楽しみながら、自分たちの健康のために頑張っている。 (女性 70代以上)

- 肉、魚、野菜等食品のバランスを考えて、毎日 3 度の食事を自分なりに作っている。日本の行事食はなるべくその時に応じて用意しているつもりだが、なかなか心にゆとりがないとできないと思う。
(女性 70 代以上)
- バランスのよい食事をして丈夫な体づくりをすれば高齢になっても元気で生活できると思うが、どうしても作る自分の嗜好が入るので、健康を損ねてからもう少し知識があればよかったと思うこの頃である。
(女性 70 代以上)
- 食とは体のエネルギーだと思う。バランスのとれた食事をして、体を動かすことが健康的に生きることだと思う。
(女性 70 代以上)
- 病気になったとき、日頃の食事の大切さに気付かされたことがあった。バランスをとっているようで、偏っていたことなど。上手に楽しく食事をするのが大事だと思う。自分の食べた物が自分の身体をつくるので、薬でお金を使うことを考えれば、食材にお金をかけるほうがよいと思っている。食育の大切さを若い人や子どもたちに教えていただきたいと願う。
(女性 70 代以上)
- 年齢を重ね、体調が思わしくなくなってきたからは、食をより考えることが多くなり、食が体をつくることを意識している。
(女性 70 代以上)
- 体に合った物を適量に食することだと思う。
(女性 70 代以上)
- 発酵食品や減塩を考えたほうがよいと思う。
(女性 70 代以上)

4 情報提供・教育・イベントについて 23 件

- 食品や栄養、ウイルスや健康への知識がなさ過ぎるにも関わらず、昔ながらの自身の直観で判断をしている方々が判断を下すため、科学的に間違った知識を「n = 1」にも関わらず他人に広め、それを信じてしまう。この悪循環で「全員で死ねば怖くないよ〜！」になっているのではと考えている。栄養士も英語が読めないから、日本語の、さらに昔の研究の知識を学んで正しいと信じていることがあるので、早めに手を打つ必要があるかと。市民には少なくともバイアスの知識が必要かと。
(男性 20 代)
- 今、YouTube 等で食事や健康に対して調べられるようになっている。しかし、正しいかどうかは分からないため、うまく整合性の取れるような媒体が必要だと思う。
(男性 30 代)
- 食育自体は重要であるが、情報のアップデートを行うようにする必要があると思う。例えば、筋肉をつけるためには一日に必要なタンパク質量は体重 1 キログラム当たり 1 グラムは欲しいと言われているが、従来のバランスを意識した食事では、そこまで求められていなかったと思う。また、食事に気をつけるあまり、高額な健康食品に手を出すようなことは愚かなことだと思う。健康についての優先順位は、運動や睡眠と合わせて考えられるべきで、安易に食生活だけを意識するのではなく、生活全体のデザインが必要だと思う。
(男性 30 代)
- スーパー等の食料品を売っている場所に、食育の情報があると興味を持って見やすいと思う。
(男性 30 代)
- 科学に基づいた情報を伝えるようにしたいし、してほしい。
(男性 40 代)

- 家庭環境や貧困の問題、メンタルの問題等もあり、食育を伝えても医者がアドバイスをしても、習慣はなかなか変えられない。多くの相談窓口が連携してくれればよいと思う一方で、個人的には中田敦彦のYouTube 大学やメンタリスト DaiGo のD-Labo 等から情報を得たほうが、楽しく学べて世の中の不都合な真実（健康食品、サプリメント、フードトラップ等）も見られて、食生活を見直すという動機になるので、行政ができることは何なのかよく分からない。（男性 40代）
- 子どもの体力づくりにお勧めのコーナー等を、スーパーにたまに出してもよいのかもしれない。（男性 40代）
- 今まで問題のなかった食品でも、ルールが変わったらだめになる物も出てくるので、いち早く広報等で告知するなどの対策は必要。健康被害が出てからでは遅過ぎるので、今はこういう食品に注意してください、とか告知するとよいのでは。（男性 50代）
- 食育について理解していても、なかなか実行できていないのが現実である。個々が自主的に行うのは当然のことだが、市としても何らかの個々の実行への提案をしていただけたら、一助になるのではないか。（男性 60代）
- 外食時、レストランや食堂等のメニューにカロリー、食塩相当量の表記があれば気をつけて食することができるのだが。（男性 70代以上）
- 子どもと一緒に作る食育講座に参加したい。（女性 30代）
- 子ども対象だけでなく、いろいろな世代の人が食育について学ぶ機会があるとうれしい。（女性 30代）
- 食育は大切なことだと分かっているけど、日々継続して意識し取り入れていくことはとても難しいのではないかなと思う。「広報ふじ」などを通じて、地場生産している旬の野菜を紹介したり、その栄養素やその食材を使った子どもメニュー、大人メニューを教えていただけたらすると、主婦としては食育をまた一つ意識するきっかけになるかもしれない。（女性 40代）
- バランスのよい食事は大切だが、アレルギーや好き嫌い、過敏症等でどうしても食べられない場合、どんな物を食べれば代替できるのかという情報を知りたい。学校給食などは、何でも食べられるのが正しいという風潮があるような気がする。（女性 40代）
- 食育はどうすることがベストか分からない。（女性 40代）
- 子どもが学校や家庭で教わることはあると思うが、大人が食育を学ぶ機会はほとんどないと思う。お子さんがいると親子食育教室のようなものがあるかもしれないが、単身者や大人向けの食育のようなものがあるとよいと思う。特に男性は買い物や料理など全く知らないような方もいるので、ひとり暮らしになったときなど困るだろうと、親を見ていて思う。（女性 40代）
- 自分が子どもの頃に親にしてもらったことを大事にしつつ、新しく得る情報等でも勉強していきたい。（女性 40代）
- 子どもが大学進学で一人暮らしをしたので、夫婦2人暮らしである。子どもに合わせるのではなく、自分たち好みの食生活になった。料理は好きなので、炊き出しのような、子どもを集めて振る舞う会などがあれば参加したい。市の地区まちづくりセンターなどで、料理教室のようなものがあると参加したい。（女性 50代）
- 子どもには必要なことなのだろうから、親に教育が必要だろう。（女性 50代）
- 中高年、また大家族から家族構成も変わり、食事についても料理方法、内容、購入についても大きく変化した。少人数、お一人様の食生活に役立つ簡単なメニュー、お店での少量パックの販売など情報を役立てていきたいと思う。（女性 50代）

- コロナ、コロナで食を含むイベントが軒並み中止されてしまっていて、出店の業者も提供を受ける側も不幸でしかない。(女性 50 代)
- テレビの報道番組で体によい食材をよく教えてくれるので、最近はそのを参考にして食事作りをしている。きのこ類、魚などバランスを考えて食事作りをしている。(女性 60 代)
- 季節の野菜等を上手く使い、短時間でおいしい料理の紹介などをやってほしい。(女性 70 代以上)

5 地産地消・農業・家庭菜園について 42 件

- アンケートであった地場産物に全く興味がなかったもので、子どもも生まれ、子どもに食べさせたいと感じた。また、地場産物が安く購入できれば料理してみたいと思う。(男性 30 代)
- 地元の特産品を道の駅だけでなく、ふだんから行く場所にあると機会が増えると思う。(男性 30 代)
- 近年の世界情勢を見ていると、食糧自給率の低い日本は、有事の際に危機的な状況になると思う。日ごろから食糧自給率の低さに危機感を持ちながら生活し、改善できることを行っていく必要があると思う。(男性 30 代)
- 顔の見える関係で買いたいのが、高価だと手が出ない。地産された物でも農薬を過剰に使っている物もあり不安。必ずしも一日 3 食でなくてよい。大人の場合は過剰摂食を減らす工夫が大切。店で季節の食品が分かるとよい。学生時代、コンビニ食品やジャンクフードなど体によくない物が安く入手できるようになってから、食品を粗末に捨てることにつながった気がする。量り売りの推奨。(男性 40 代)
- 自給率を上げるためにも、国産品、特に地場物の消費を推進すべき。(男性 40 代)
- 食育は絶対大事。地産地消など、地域にもよい食品はたくさんある。市または発信できる団体があれば、もっと市民の目に留まる形で出してほしい。残念ながら富士市はそれができていない。(男性 40 代)
- 地物産品をスーパーでよく見かけるようになってよいことだとは思っているのだが、流通品に比べて高い、または商品が小さいなど、お買い得感が全くない。地産地消がいかに大切かはよく分かっているが、あれでは買いたくないと思う。(男性 50 代)
- 自給率がアメリカの言いなりになり、今なおこの発達した文明の中でも 20% 台であることに疑問を持つ。政府はいい加減、全ての食糧自給率を 80% 台まで上げるべき。ロシアなんぞに侵略され、中国・北朝鮮の脅威に軍事費を上げるよりも、そこをやってほしい、というかやれ。第一次産業、第二次産業の嵩上げこそ、これからの日本の目指すべき道である。(男性 50 代)
- 本当は地場産物を使ってみたいが、富士市は工場が多く、大気汚染、水質汚染が気になるため、あまり買わない。田子浦も臭い、富士の空も淀んでいる。富士山のおいしい水があるのに、農業が発展せず、住宅地に切り替わってしまっているのが残念。工業の発展よりも、住民の健康、自然、農業、水産業がともに発展するまちづくりに方向転換をしないといけないと考える。「いただきへの、はじまり」をアピールする前に、富士山の自然とまちのイメージが一致していない。ゼロカーボンシティを目指してほしい。(男性 50 代)
- 地産地消。地元食材のよさの PR。(男性 60 代)

- 農産物等は生産者が直接販売すること、無人販売等で各農家もできるようにしたらどうか。また、農家が直販できるネット通販等、市としても支援が必要だと思う。規格外の農産物も販売の拡大が望ましいと思う。とあるテレビで見たが、遊休農地を市民に安価で貸し出す。農家の人が支援する等して、市民の自給率を上げる必要があると思う。私も60歳だが、うまく野菜も育成できない。市民の栽培に対する技術の向上が市内自給率を上げ、安全な野菜を食べる。双方に向上すると思う。
(男性 60代)
- 畑の野菜を食べてJAの産直を利用して、新鮮な物と安全性に気を配っている。
(男性 70代以上)
- 家庭菜園で取れた旬の野菜を食べること。バランスの取れた食事などを心がけている。
(男性 70代以上)
- 地産が望ましいが、静岡産の農作物が意外に手に入らない。なぜかスーパーに並んでいる品物は静岡産が流通していない、または高過ぎる。
(男性 70代以上)
- 自分で育てて料理して食べることで、食に対する感覚が広がると思う。地域食材をもっとPRすることも食育への関心を高めるきっかけになるのでは。
(男性 70代以上)
- 地産地消もよいと思うが、結局安い物を買ってしまう。
(女性 20代)
- 地産地消コーナーが広く取られているスーパーへ行くと、自然と足がそのコーナーに向かう。旬の食材も知れるのでよいと思う。学校給食でも地産地消をしていて、子どもたちにもなじみのある言葉になりつつあると思う。小さい頃から地元の食材をおいしくいただく習慣があれば、将来も地元の食材を意識して買おうという気持ちにつながると思うので、今後も我が家では積極的に地元食材を食事に取り入れていこうと思う。「これは地産地消でね…」と家族と食事の会話のきっかけにもなる。
(女性 20代)
- スーパー等で地物野菜や果物などが安く手に入れられる場所が増えれば、もっと食育を行えると思う。今はなるべく食育をしようと心がけているが、値段が高く家計を圧迫しそうな場合は外国産を買っている。
(女性 30代)
- 野菜等の産地を目にして気にすることはあるが、食費を節約しなければならないので、結局は一番安価な物を選ばざるを得ない。食の幅を広げたい気持ちはある。
(女性 30代)
- 先日道の駅富士川楽座で行われた「わくわくコーン」の販売会に長蛇の列ができていた。富士市の名産としてPRしていくとのことで、もっと広まればよいと思った。テレビやSNSを使って富士市のイベントや地元の名産をPRしていけば、もっと活気が出てきて食に対する関心も高まると思った。
(女性 30代)
- できる限り地元で作られた食材を購入して、農家さんには頑張ってもらいたい。
(女性 30代)
- 食育とはあまり関係ないが、日本国内の食糧生産自給率が低くて将来が不安である。
(女性 40代)
- 土曜日など休みの日に、旬の野菜や果物を買いにJAの産直市等に足を運んでみる。早い時間から、オープン前に女性たちがエコバッグ片手にずらりと並んでいる所に、私も何を買おうか考えながら、一緒に並んでみる。生産者さんが自らトラックで運び、棚に並べて値札を貼り付けている光景がとても新鮮。野菜も新鮮で、食べたことのない野菜を買っては、ネットで調べると調理方法なども動画で簡単に見られるので、料理も楽しくなる。魚屋さんをあまり見かけなくなって、少し残念だけど、港もあり、富士市にはすばらしい食材がたくさんあって、これからも旬の食材を使い、おいしい物をおいしい形で家族に提供し続けていきたい。
(女性 40代)

- 家族や自分自身の健康を維持するために、食生活を整えることは重要であると考えている。地元の食材を気軽に安い値段で買える場所を増やしてほしい。(女性 40代)
- J Aの直売所の閉店の時間が早い所が多いので、もう少し遅くまで開いていれば野菜をもっと買えると思う。地場の新鮮な野菜を少しずつ毎日購入したい。午前中だけの所がほとんどなので、午後のみと半々くらいだと、もっと地元の産物を手にする機会が増える。地産地消は食育の基本だと思う。(女性 40代)
- 地域の農家さんが育てた取れたて野菜等を、直接購入できる直売所をもっと増やしてほしい。(女性 50代)
- もっと大勢の人が野菜を作れるような土地の提供があるとよい。(女性 50代)
- 富士市の野菜や果物のおいしさを感じる人が多い。J Aでの野菜の購入が多くなった。(女性 50代)
- ボカシ肥料を庭に利用しているが、授産所等でEMボカシの販売をしていることやポリバケツの無料配布をしていることが周知されていないように感じる。環境や授産所の収益にもつながるので、市役所2階のあつぷる、いっぷく等でもっと大々的に目につくようにのぼりやポスターを貼ったり、「広報ふじ」に頻回に取り上げたりして、もっと積極的に周知活動を試みたらどうだろうか。(女性 50代)
- 形が悪くても地場野菜や農産物が安く手に入る場所が増えたり、市役所の土日はファーマーズマーケットにしたり、高齢者のために地場野菜を移動販売で買えるようにしたりできたらよいと思う。富士市のお米で米粉パン、米粉の麺。もっとお米を食べて、小麦粉がなくても大丈夫な富士市に。(女性 50代)
- スーパーやホームセンター等で地元生産者の名前入りの野菜をよく買う。新鮮だし日持ちもする。多少の傷物等も安く売ってあげれば、フードロスが減るのではないか。(女性 50代)
- コープを利用しているが、コープと連携して地域の野菜や肉・魚が手に入るようなら、地域の新鮮な物を食べたいと思う。(女性 60代)
- 地場野菜を売っている場所が少ないし、早い時間で終わってしまうのでなかなか購入できない。月に1回でもよいので、地区まちづくりセンター等で売ってもらえないか。働く人はなかなか購入できない。マルシェという形でもよいと思う。よろしくお願いします。(女性 60代)
- 新型コロナウイルス感染症が落ち着いたら、富士本町で行われているようなトラック市(野菜など)を各地区でやってもらえたら、地産地消に貢献できると思う。(女性 60代)
- 農業体験、地産地消が食育につながるイメージがなかったので、これからはもっと意識したいと思う。(女性 60代)
- J Aの朝市を各場所で開催しているが、商品(農産物)がすぐ終わってしまうので、時々富士宮市の「う宮～な」に行くが、種類が豊富でいろいろと買ってしまう。周りの人も案外富士宮市まで行っていたので驚いた。何店舗かまとめて開催したらよいのでは。(女性 60代)
- 近くに「う宮～な」のような大きなファーマーズマーケットがあると便利だと思う。広報で季節の物を使って、簡単な料理紹介。ただし、どこの家にもあるであろう調味料を使うこと。(女性 60代)
- 主人が畑で野菜を作っているので、新鮮な野菜をいつも食べている。また、生ごみはボカシを使って、肥料として畑に持って行ってもらう。(女性 70代以上)

- 少しばかりの畑だが、四季折々の野菜を作り、ご近所にも差し上げて喜んでいただいている。何年前のこと、お隣に幼い男の子の兄弟がいるのだが、ある日お兄ちゃんがナスを一本大事そうに抱えて持ってきてくれた。お返しのつもりだったのだろうか。小さなプランターで育てているのは知っていたが、びっくりした。「ありがとう」と言うと、ニコッと笑って満足そう。それから毎年少しいろいろな物を育てている。(女性 70代以上)
- 少しばかりの量だが、主人が無農薬野菜を40年くらい作っている。虫が食べた野菜、しおれて芽が出ない野菜も多いので、採取したうちのよいところだけ利用して食べている。そのためか、「市販の野菜やお惣菜は体が受け付けない」と言うので、3度毎回手作りの食品をいただいている。その時期の野菜中心なので、決まってしまう食生活だが、野菜を干したり冷凍したりして、その日をしのいでいる。肉や魚は冷凍のコープなどを購入するが、コープすらお惣菜類が多く、選ぶのに苦労している。孫には祖母たちが交代で夕食のおかず届けを、もう20年やっている。すぐ口に入る物はなるべく控え、子どもや孫たちの顔を思い浮かべながら、夕食作りをしている。長く底支えの生活ができていることを願っている。「食べた物で身体はつくられる」とか「食は命」とか、そうした言葉をいつも心に留めて食事作りをしている。(女性 70代以上)
- 自分の食事には特に気をつけている。特に地産地消。夏野菜は自分の家のプランター等で作り、JAなど名前付きの品物等を選ぶことが多い。(女性 70代以上)
- ブランド化し過ぎているので、困っている人に分配してもよいと思う。傷物でも食べられるし、もったいない。(性別不明 50代)

6 食品廃棄について 13件

- 食育と廃棄ロスはいコールではない。ロス、ロスといっているだけで、スーパーや大型店は多くロスしている。食育についても18歳に飲酒を勧める大人もいる。富士市では食育から18歳への飲酒をさせる議員はどう思いますか。アルコールは食育だろうか。富士市の説明が欲しい。(男性 40代)
- フードロスを減らすように、またなくすように日常的に心がけているが、少人数の家族なので、どうしても食べ残しが出てしまう。作る量にもよるが、廃棄するときに非常にもったいない気持ちがある。(男性 60代)
- 食品廃棄物をなくして、困っている人に配る。(男性 70代以上)
- 廃棄となってしまう食材や、飲食店で調理された物に関して、必要とする人が検索して購入できるような仕組みがあったらよいと思う。(女性 20代)
- 食品ロスは減らしたいと思っている。もらい過ぎない、買い過ぎないは意識している。栄養のバランスも子育てをしていることもあり、以前よりも意識している。社会全体としてSDGsをやっているから、食品ロスはもっと呼びかけたり、「フードドライブ」が上手く機能していたりすればよいと思う。(女性 30代)
- ふだんから毎日家族の食事を作っているのだから、食材や賞味期限に気をつけて買い物をしている。残食を減らすために子どもも食べられるように調理したり、廃棄しないように賞味期限の近い材料から先に使ったり、冷凍保存にしたりと、ある程度気を遣っている。大淵の農民市場を利用して、地元の野菜を食べる機会を増やしている。(女性 40代)

- 必要以上に買い過ぎない、作り過ぎない、食べ過ぎない。仕方なく使用しない乾物（頂き物など）は早めにフードバンクへ持っていくようにしている。一人一人が意識すればよりよい社会になるのに。
(女性 50代)
- 規格外の野菜などを格安で販売していただくなど、食品を無駄にしない、さらに家計にもやさしい消費ができる購入場所を増やしてほしいと思う。
(女性 50代)
- 残さず食べる。
(女性 50代)
- 野菜の皮はむかずに使う。にんじん、新じゃが、ごぼう、大根の皮はまとめておき、きんぴらを作るなど、なるべく生ごみを出さない。茶殻等は家庭菜園の肥料として使う。
(女性 70代以上)
- 実家から野菜や米等を時々頂くので、それを残さないように調理している。一人暮らしなので、肉や魚等をバランスよく食することが難しい。
(女性 70代以上)
- コロナで学校が休みとニュースで見て、給食での牛乳や食材が余り、廃棄しなくてはならないなど、もったいないと思う。学校等で証明書を発行して、JAやスーパー等で無料で牛乳と交換できたらよいと思いながら、ニュースを見ていた。流通や冷蔵等、いろいろ難しいと思うが、廃棄はもったいないと思う。子どもに対する手当もいろいろあるが、私は基本的に学校給食は無料がよいと考える。
(女性 70代以上)
- 食品を必要以上に買わない。購入後は早く調理する。栄養のバランスが取れるように工夫する。
(女性 70代以上)

7 食の安全について 22件

- 自分はバランスのよい食事をするだけしか分からなかったので、食の安全性についてもこれから覚えていこうと思っている。
(男性 20代)
- 福島原発で管理されているフレコンバッグ（土嚢）が今後全国へ流通し、道路や造成に利用されると聞いた。県や市が関与されないところで園芸用土に回る恐れは大きい。市として「食」を考えるなら、農作業用の土にフレコンバッグが活用され、育った野菜を子どもたちが食べて内部被ばくすることを懸念されたい。高齢者は大丈夫だろう。特に流通ルートをつかなくて入ってくるので、県などと連携して対応してほしい。放射能は拡散してはだめだ。大きな後悔を残すことになる。
(男性 60代)
- 安さを求め過ぎるとやや不安を感じる外国産の食品の多さに気づく。たいそうなことはできないので、少し畑（以前は庭）をつくり、有機栽培の真似事をするので、生ごみを減らし、資源ごみを峻別することをきっちり行っている。各家庭から出る生ごみを「よく絞ってごみの日に」ではなく、有機肥料に変えることができないだろうか。
(男性 60代)
- 安全な食材をバランスよく取ること。
(男性 70代以上)
- 子どもが小さいので添加物が気になる。
(女性 30代)
- 食品の安全性の知識を得たいと思うが、なかなか子育て中に自力では難しいので、広報等で情報が欲しい。少しずつではなくて、特集等でまとめてほしい。子どもたちにも農業や調理の体験ができる機会を頂けたら、食への関心が高まると思うので、ぜひお願いしたい。
(女性 30代)

- 正しい食習慣や栄養バランスのよい食生活も大事であるが、根本的な「どのようにして作られているのか」をもっと掘り下げていくべきではないかと思う。私自身も最近知る機会があったが、海苔の酸処理はご存じですか。生産性を重視したことで実施している工程だが、昔ながらの製法で酸処理していない生産者さんもいる。このようなことを知る機会も必要ではと思う。その上で何が本当に正しい食なのかを考える場であってほしいと思う。自分たちが食べる食なので。あと、食育活動を通じて、農業が活性化するとよい。国内自給率を上げないと、日本は食料危機になるという不安が大きい。コロナ、ウクライナ情勢で、さらに強くそう思う。(女性 40代)
- 安全・安心な食材がもっと増えてほしい。(女性 40代)
- 栄養面等のことだけでなく、添加物の世界的レベルでの危険性について、米国などではどういう基準か比較したい。グルテン(小麦粉)については、砂糖より血糖値を上昇させる、臓器に炎症を起こすなどの危険性。そういった命を守る食育をしてほしい。(女性 50代)
- よい材料を手にする環境を当たり前と置いていたが、現在手に入りにくいことを味わい、当たり前が当たり前でないことを知った。食材の大切さをとても感じる現在の状況も悪くないと思っている。大事なことに気づかされた。(女性 50代)
- 食育は、まずは子どもが心身の成長に必要な物が安心して取れること。フードバンク等の広がりがあるが、民間には個人的に高齢者の趣味で作っている野菜等が余っている。それらを安全に必要な人に届けられるシステム、人、金銭的なものを公的につなげることができたらよいと常々思っている。食の内容のみならず、子どもや高齢者が一人で食べなくてよい環境を時々でもよいので作ることも必要だと思う。富士市民の今、これからのため、よろしく願いいたします。一時は他県に出たが、富士市はよい所だと実感した。だからこそ、さらによくすることを願っている。(女性 50代)
- 問41にある「食品の安全性への不安」と「安定的な食料供給への不安」については、ウクライナとロシアの現状により不安が高まったと思う。(女性 50代)
- スーパーへ買い物に行っても、中国の物が多いように感じる。安いが、品物が大丈夫なのかと不安になる。(女性 60代)
- 自分の子どもたちと生活している。主に私が日々の食べることに携わっているが、子どもは成人しており、仕事の関係で家族そろっての食事は滅多にない。孫2人がアレルギーを持っているので、調味料等を購入する際、使用している物や内容をよく確かめて、本当に気を遣う日々である。何かあったら大変なことになるのでとても心配だが、今のところ何事もなく来ている。日々の食事はもちろん、2人が月～金曜は弁当持ちで、頭の中から弁当のおかずが消えることがない。こんな生活を続けているので、弁当作りは苦にはならず、私がお家を空ける場合、家に一人でも残る者がいるときは、必ず弁当を作って置いていく。適当な時間に起きてきて、大人でも「おうち弁当」が食べられるというのは、弁当の中身はともかく、ホッとすらしい。(女性 70代以上)
- 以前、食に関する知識がないとき、主人が干し柿を買って食べたら腹痛となり、大変な思いをしたことがあった。白い粉と思っていたのはカビで、裏の表示は中国産だった。それ以来、肉も野菜も国産にして、野菜は家庭菜園で作り、足りない物は農協の産直で買い求めている。孫にも畑で収穫させ、料理の前の姿を見せ、好き嫌いをなく最後まで残さず食べるよう教えている。(女性 70代以上)
- 無肥料、無農薬の野菜、有機野菜がよい。(女性 70代以上)
- 農林水産物の産地等の表示、また食品添加物の安全性の表示が正当であるか、不安を感じながら食事することがある。(女性 70代以上)
- 中国産の物は買わないようにしている。(女性 70代以上)

- 農薬の少ない野菜、米を食べたい。多少の形の悪い野菜などの販売をしてほしい。
(女性 70代以上)
- より安全で安心して食べられるよう、野菜は家庭菜園で作って食べるように心がけている。
(女性 70代以上)
- 何よりも世界で一番食品添加物と農薬が多いことを危惧している。一刻も早くやめてほしい。お願いします。
(女性 70代以上)
- 安全な物を選ぶと食費がかさむ。年金暮らしの身にはきついが、できるだけ続けようと思う。
(女性 年代不明)

8 経済面について 11件

- 生活のため食費を削らざるを得ず、食育まで気が回らない。
(男性 40代)
- 食品などの値上げばかりで大変困る。
(男性 50代)
- 物価が上がり、サラリーは減。これで食育もへったくれもあるものか。
(男性 50代)
- 限られた収入の中での食育は難しい。
(男性 60代)
- 肉、野菜、魚など高値になり、家計に影響が出た。
(男性 70代以上)
- いろいろな物が値上がりしているが、食生活は変えられない。物価上昇の波が収まることを願うばかりだ。
(男性 70代以上)
- 食育を大切にしたいが、いろいろな食材が値上げされ大変になっていくと思う。食育と一言で言うが、この現状や生活を考えると難しい家庭も多いと思う。食育を大切にしたら、子育て環境や支援などをもっと考えてほしい。
(女性 40代)
- とても大切なことだと思う。でも経済的にできない人もいる。お金、時間に余裕がない人もいる。私がそうだったので。
(女性 50代)
- 食生活の大切さは誰しも知っていると思う。心の豊かさと同じく、食の豊かさも大事で必要。しかし、現実は何でも高く、収入も少なく、生活しづらい。子ども食堂を利用しているが、安くておいしい。人が作ってくれる物は何でもおいしい。
(女性 60代)
- 物価が高く年金が少ないため買うことができず、もっとおいしい物を食べたい。
(女性 70代以上)
- 生鮮食品の値上げのため、安く手に入り栄養価の高い料理を毎日心がけている。
(女性 70代以上)

9 新型コロナウイルス感染症の影響について 6件

- コロナで外出が減ってから太ってしまい、以前よりも食事に気を遣うようになった。また、家にいる時間も増えたので、以前よりも料理に時間を取れるようになった。コロナをきっかけに、食育について考えることが増えたと思う。(女性 30代)
- 新型コロナウイルス感染症の感染者が多いときは、家での食事では、まとめ買いをして、新鮮な物を新鮮なうちに処理をしておいしく食べるようにして心がけていた。今はコロナではなく、ウクライナ情勢やガソリンの高騰等で食費が上がり、ちょっと家計に響いている。それでも家族が健康で生きていくために、自家野菜や地元の食材を安く購入し、残さず食べるように心がけている。魚が大好きな家族にとって、魚が高いのはちょっと悲しい。(女性 50代)
- 我が家ではコロナと食生活はあまり関係がない。(女性 50代)
- 全く関係ないことだが、8月13日に300人以上の同窓会の案内が来た。コロナ禍で300人以上集まって飲食するなんて、とんでもないことだ。やめてほしい。やめさせてほしい。(女性 50代)
- 食育は心身にとても大切なこと。コロナ禍で家で料理する人が増えたが、元々は外食より家で作り食べるのが当たり前だと思っている。24時間何でも手に入る世の中だが、特に食に関しては決してよいこととは思えない。(女性 60代)
- 家族にコロナ感染者が出たとき、突然のことで食材不足になってしまい、一日中家の中にいる時間が続き、孫たちに菓子類を多く食べさせ、食事のバランスが偏ってしまった。手作りしたくても食材の入手が上手くいなくて、レトルト物を多く使った。最近では買い物も行けるようだが、なるべく手作りした物を食べさせてやりたいと思うようになった。(女性 60代)

10 取り組めていない理由について 14件

- 食べるのにいっぱい、食育までは考えられない。(男性 50代)
- 子どもが小さいときは気にしていたが、大きくなるにつれ気にしなくなった。(男性 50代)
- 個人的に仕事に追われ、自由時間がないため、意識までにとどめる。(男性 50代)
- ひとり暮らしのため、コンビニ中心の食生活になっている。平日は時間がなく、食事を作る時間がない。(男性 60代)
- 食育まで余裕がない。(男性 60代)
- 手間がかかるため実践するのは難しい。(女性 20代)
- 食育という言葉は何となく聞いたことはあるが、具体的にどういうことかよく分かっていない。(女性 30代)
- 食育は仕事が忙しくてできない。(女性 40代)
- 子どもに大事なことだと思うが、自分には生活のほうが大事であるため、食へのこだわりは減少している。健康には気をつけたいが、交代勤務のため、規則正しい食生活にはなりづらい。(女性 40代)

- 実際は毎日忙しくて、サッと作って食べるのが普通。食育ができるのは時間に余裕のある人。サラリーマンは難しいと思う。(女性 50代)
- 食育は必要だとは思いますが、実行できていない。(女性 50代)
- 子どもが家にいるときは果物や野菜を積極的に取り入れていたが、現在は主人と2人だけの生活になり、調理することや買い物に行くことがおっくうになってきている。年を重ねるたびに手を抜くような状態になっていくと思う。そこにバランスの取れた栄養のある食事を目指そうと言われても、なかなか難しいと思う。(女性 60代)
- 子どもも成長して社会人となり、家族そろっての食事がほとんどない状態である。少人数では料理することも減り、スーパーで惣菜を買うことが増えた。コロナ禍では毎日ご飯を炊いたが、外食が夜もできるようになると、ご飯を炊く量も減り、またバラバラの食事となった。亡くなった祖母に、春になるとよく作ってもらったタケノコご飯。今年はどうとう祖母の代わりに作ることもなかった。子どもが小さいときは3食作るのは当たり前だったのに。やはりにぎやかだったところが懐かしい。それが幸せだったということだ。(女性 60代)
- 仕事で疲れて、料理に時間をかけたくない。食事を作ってもらいたいくらい。(性別不明 年代不明)

11 食育全般について 23件

- 食育の重要性について改めて再認識した。(男性 30代)
- 「むすびん」はちょっと…。ギャグマンガ日和がよぎるので。(男性 30代)
- 食育の言葉は、子どもがまだ就学中に聞いたことがあるが、私どもの年代には馴染みがないので、愛称の「おむすび計画」より「食育推進計画」のままのほうが聞き慣れていく言葉だと思う。他市もそうなのかも分からないが、市の事業は愛称でないほうがよい。覚えにくい、何を指しているのかと思っている。自分より年長者はもっと分からないと思う。よろしくお願いします。(男性 50代)
- 食育は絶対に必要。市としても重点政策としていただきたい。(男性 50代)
- 人の思考や行動まで食が左右すると思う。(男性 60代)
- 食べられることがありがたい。(男性 60代)
- 食事は生活の一部。(男性 60代)
- 家庭の力が低下している。(男性 60代)
- 市販品でも富士で作られた紙の容器、包装紙に入れて、家に持ち帰る習慣があったらよいと思う。スーパーでもコンビニでも、入れ物だけでも富士の古紙やパルプ紙で作って、安く売って、繰り返し使ったらビニールが減ると思う。生ごみ入れ用のごみ袋をビニールから古紙の袋に変えられたらよいと思う。雨天は困るので難しいだろうか。庭の枯草、花、枝だけでも、古紙の袋に入れたい。きれいにまとめればできると思う。ビニールのごみ袋に、葉、花、小枝を入れるのはおかしい。もったいない。(男性 60代)
- 満腹になればどうでもよいと思っていたが、これからは食育について注意し、考えを深めていきたいと思う。(男性 70代以上)

- 「食育」とあまり堅苦しく、また前のめりにならず、楽しく豊かな食生活を送ることができればよいのではないかと思う。それが心身のためにもなるのではないかと考える。 (男性 70代以上)
- 食育はとても大切だと思う。 (女性 30代)
- 道徳的イメージなので、余り形式ばって進められると「食事を楽しむ」という本来の喜びが損なわれそうな気がする。ふだんの生活の中で、いかに自然に組み込めるかが大切なのではないか。 (女性 40代)
- 食事の大切さをもっと考えるようにしたい。 (女性 40代)
- 大事なことだと思う。自分自身はきちんと教育されてきて幸運なことだったと思う。 (女性 50代)
- 今まで通りにやる。 (女性 60代)
- 食育は、我慢しないこと。 (女性 60代)
- 食育は必要なことであり、意識する。 (女性 70代以上)
- 一人暮らしの食育について思い悩むことが多い。 (女性 70代以上)
- アンケートの設問に対して、後期高齢者の一人暮らしにはあまり当てはまらない。個人差はあると思うが。 (女性 70代以上)
- 私たちの体は食べ物でできている。 (女性 70代以上)
- 自分の体は自分の食べた物でできている。 (女性 70代以上)
- 自分で日常生活をしながらふと気がついたことを常食し、夫婦で3食を共にしている。 (女性 70代以上)

12 市政について 6件

- 食育の前に気にすべきことがたくさんあるのでは。 (男性 40代)
- 小長井市長様、もう少し富士市のためになることをしてほしい。 (男性 50代)
- 市や行政としてなぜ食育に力を入れるのか。これが分からない。ポリシーがないところに何をやっても振り返るだけで前には向かないと思う。なぜ行政として食育に力を入れるのか。 (男性 60代)
- 富士市は食べ物もおいしいし、住みやすいまちだと思っている。これからもこのような住みやすさを維持できるよう、よろしくお願いします。 (女性 40代)
- コストコなどの大型スーパーを富士市に誘致してほしい。 (女性 50代)
- まちなか以外の歩道を整備してほしい。車乗り入れのための段差があり、足を取られ、捻って骨折した。歩道が狭過ぎる。 (女性 70代以上)